



2015年度

向陽ヶ丘病院年報

北海道立向陽ヶ丘病院

はじめに

昨年の6月20日から新病院での診療を開始した。建物の気密性とボイラー機能が劣化した築48年の旧病院と比べると、空調の効いた新病院は快適で、日々感謝しながら職務に専念しているところです。新病院の病棟構成は、この数年間病床利用率が漸減していたところから道立病院室と協議を重ねて、旧病院の総病床数146床で3病棟—3看護単位体制を、総病床数105床で2病棟—2看護単位体制に規模縮小して再編制した。その結果当院の入院治療に求められる、閉鎖病棟機能と開放病棟機能および老人精神病棟機能の病棟編成が難しくなり、熟慮・検討の結果、開放病棟と老人精神病棟を合わせて1看護単位で見る複合病棟を設置することになった。複合病棟とは、建物の中央に看護ステーションを配置して、その左右にそれぞれ病棟ロビーを配備した二つの病棟を一つの看護ステーションが24時間見る看護体制である。複合病棟を運用することの難しさは、身体合併症を併発した認知症関連の患者を見る一方で、同時に適宜開放患者の心への対応もしなければならず、治療看護の計画の立て方も異なり、夜間休日の看護行為の導線の方向性が左右に分かれるなど、構造的な課題が多々存在することである。医療安全の問題を含めこれらの課題に適切に対処するためには、現状では人間の力しかなく、関係する医療者の総合的な臨床能力の向上が求められる。さらなる研鑽が必要である。

新病院となってからの入院患者の傾向は、これまでの旧病院での入院患者の動向と大きく変わることはなく、統合失調症患者等の入院が減る一方で認知症関連の患者さんの入院が増え続けている。当院に入院する認知症関連の患者さんは、認知症に身体合併症を併発して精神・行動障害をきたしているケースがほとんどで、常に身体面の治療・看護を継続しながら精神・行動の障害を専門的に治療しなければならない。身体症状の増悪があればその都度治療的に対応しなければならず、医学全般の最新の基礎的な知識と技能に習熟していることが求められる。新規に入院する統合失調症などの患者さんも高齢化し、合併する生活習慣病等が悪化した上に精神症状が増悪して入院するケースが多くなった。身体面と精神面を並行して治療・看護しなければならない入院患者が増え続けている。その結果22床の老人精神病棟は常に満床の状態、開放病棟の個室を利用するなどに対応しているが、近い将来入院患者の疾患別構成がますます変化した場合の病棟と病室の利用をどのようにするのか、既に現実的な課題となっている。

尚、私事になるが私は本年3月末日で定年退職となります。後任の病院長も決まり、後顧の憂いなく、安心して退職できる環境を整えてくださった関係者に御礼申し上げます。平成29年4月からは地方公営企業法が全部適用となり、新たに病院事業管理者が導入されます。病院の組織機構と人事体制が一部改正される予定ですが、新病院長のもと一致結束して新たな地域精神科医療に貢献できる病院をめざして頑張りたいと思います。充実した仕事をさせていただいた道立向陽ヶ丘病院の38年間にあらためて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

平成29年2月13日
病院長 佐々木信一

理念、基本方針等

理 念

「こころの和と輪」を大切に、
患者さま、ご家族、地域の皆さまと手を携え、信頼と満足の医療を目指します。

基本方針

- ・オホーツク圏における精神科医療の基幹病院としての役割を果たします。
- ・患者さまの権利を尊重し、安全で信頼される医療を提供します。
- ・人権を尊重し、地域との連携を深め、患者さまの社会参加を応援します。
- ・医の倫理を踏まえ、より質の高い医療を目指して職員の資質の向上に努めます。
- ・公的責務を自覚し、透明かつ適正な病院経営に努めます。

患者さまの権利と義務

「患者さまの権利」

向陽ヶ丘病院は「患者の権利宣言(リスボン宣言)」を尊重します。

- ・人権や価値観を尊重され、適正な医療を公平に受けることができます。
- ・病気や治療の内容について、十分な説明を受けることができます。
- ・十分な説明に基づき、自らの意志で医療内容を選択することができます。
- ・医療上の個人情報や秘密は守られます。
- ・あなたの診療情報の開示を求めることができます。

「患者さまの義務」

- ・ご自身の健康に関する情報を知らせていただきます。
- ・病気や治療の内容について、十分理解するように努力していただきます。
- ・病院のルールを守り、意欲を持って医療に参加していただきます。
- ・他の患者さまの医療を妨害する行為を慎んでいただきます。
- ・医療費を支払う義務があります。

臨床倫理綱領

- 1 病める人々とその家族・関係者の権利を尊重し、信頼関係に基づいた医療を行います。
- 2 十分な説明と同意に基づく、患者さま本意の医療を行います。
- 3 隔離などの行動制限が必要な場合には、それを最小限にとどめるよう努力します。
- 4 医療情報、記録を整備し、決められた基準に従い管理します。これらの情報に関しては、患者さま以外の第三者に対しては、正当な理由なく洩らしません。
- 5 病院医療に関わるあらゆる安全管理に最大限の努力をします。

職員の倫理

- 1 向陽ヶ丘病院の理念、基本方針を自己の行動の規範とします。
- 2 公務員倫理と医の倫理を踏まえ、患者さまの権利を尊重し、希望のもてる医療を実践します。
- 3 仕事に誇りを持ち、すべての患者さまに公平、平等な医療を行います。
- 4 より質の高い医療を提供するため、自己研鑽に努めます。
- 5 患者さまや地域からの信頼を得るよう努めます。

暴力対策指針

この指針は、北海道立向陽ヶ丘病院職員（以下「職員」という。）が暴力の基本を踏まえ、包括的かつ組織的に暴力の予防、対応、再発防止に取り組む方法を指針として示すことによって、職員を暴力から保護し、職員の安全と健康を確保するとともに快適な職場をつくり、もって質の高い安全な医療サービスを提供することを目的とする。

目 次

はじめに

理念、基本方針等

第1	病院の概要	1
1	性格と機能	1
2	主な事業	1
3	施設概況	1
4	診療概要	1
5	組織機構	2
6	職員数	3
7	院内各種会議・委員会の設置状況	4
8	会議・委員会等組織図	5
第2	業務概要	6
1	医局	6
2	看護	7
3	薬局	1 1
4	栄養指導部門	1 2
5	放射線科	1 3
6	臨床検査科	1 4
7	作業療法科	1 5
8	デイケア科	1 6
9	臨床心理業務	1 7
10	認知症疾患医療センター	1 8
第3	診療概況	1 9
1	年度別、病棟別入院患者動態	1 9
2	新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合	2 1
3	新入院患者の病名別・年齢構成	2 7
4	新規入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移	3 3
5	入院患者の在院期間別人数及び割合	3 4
6	退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合	3 5
7	入院患者の居住地別人数及び割合	3 7
8	入院患者の経路別人数及び割合	3 8
9	外来患者数の推移	3 9
10	初診外来患者の病名別分類	4 1
11	外来患者の居住地別人数及び割合	4 2
12	診療時間以外の診療件数内訳	4 3
13-1	精神科救急医療システム実績	4 3
13-2	救急車による患者搬入件数の年次推移	4 3

第4	経営概況	4 4
1	決算状況	4 4
2	経営分析調	4 5
3	診療行為別件数	4 6
4	病床100床当たり職員数	4 7
5	医薬材料使用効率調	4 8
6	給食収益に対する材料費調	4 8
第5	地域支援活動	4 9
1	診療支援	4 9
2	地域の保健、予防活動	4 9
3	講演	5 0
4	自助グループへの支援	5 0
5	グループホームと地域活動支援センターの支援	5 0
6	網走保健所、市町村等との連携	5 0
第6	研修、教育・実習	5 2
1	院内研修開催状況	5 2
2	院外研修会等参加状況	5 2
3	教育、実習の受入、研究	5 3
第7	医療事故等の状況	5 4
1	医療事故等の公表基準	5 4
2	医療事故等の発生状況	5 5
第8	ご意見の概要	5 6
第9	資料(網走の精神保健・医療)	5 7
1	オホーツク総合振興局管内の人口と面積	5 7
2	精神科医療機関の状況	5 7
3	精神保健福祉社会資源	5 7

第1 病院の概要

1 性格と機能

- ・道東北(北網)地域の精神医療の専門病院として、地域医療の公的使命を担っています。
- ・精神科デイケアを設置し、社会復帰のための機能を担っています。
- ・訪問看護を実施しています。
- ・精神科救急医療体制(オホーツクブロック)に参加しています。
- ・児童発達外来サテライト診療を実施しています。
- ・認知症疾患医療センターを設置し、認知症専門医療を実施しています。

2 主な事業

- (1) 入院及び外来患者に対する診療
道立病院として、精神障がい者に対する診療を実施
- (2) 社会復帰活動の実施
訪問看護活動、精神科デイケア、精神科ソーシャルワーク及び入院リハビリテーションを実施
- (3) 精神科救急医療体制への参加
オホーツクブロック精神科救急医療体制事業(緊急時の精神科医療確保のため行っている事業)に参加し、救急医療施設として緊急時に対応
- (4) 認知症専門医療
鑑別診断、急性期治療、専門医療相談の実施
- (5) 臨床研修の実施
臨床研修協力施設として、医師の卒後教育を実施
- (6) 実習学生等の指導
看護学生精神科看護実習等の指導を実施
- (7) 地域の保健・予防活動への支援
他関係機関に協力し、地域の保健予防活動、精神保健の普及活動を支援

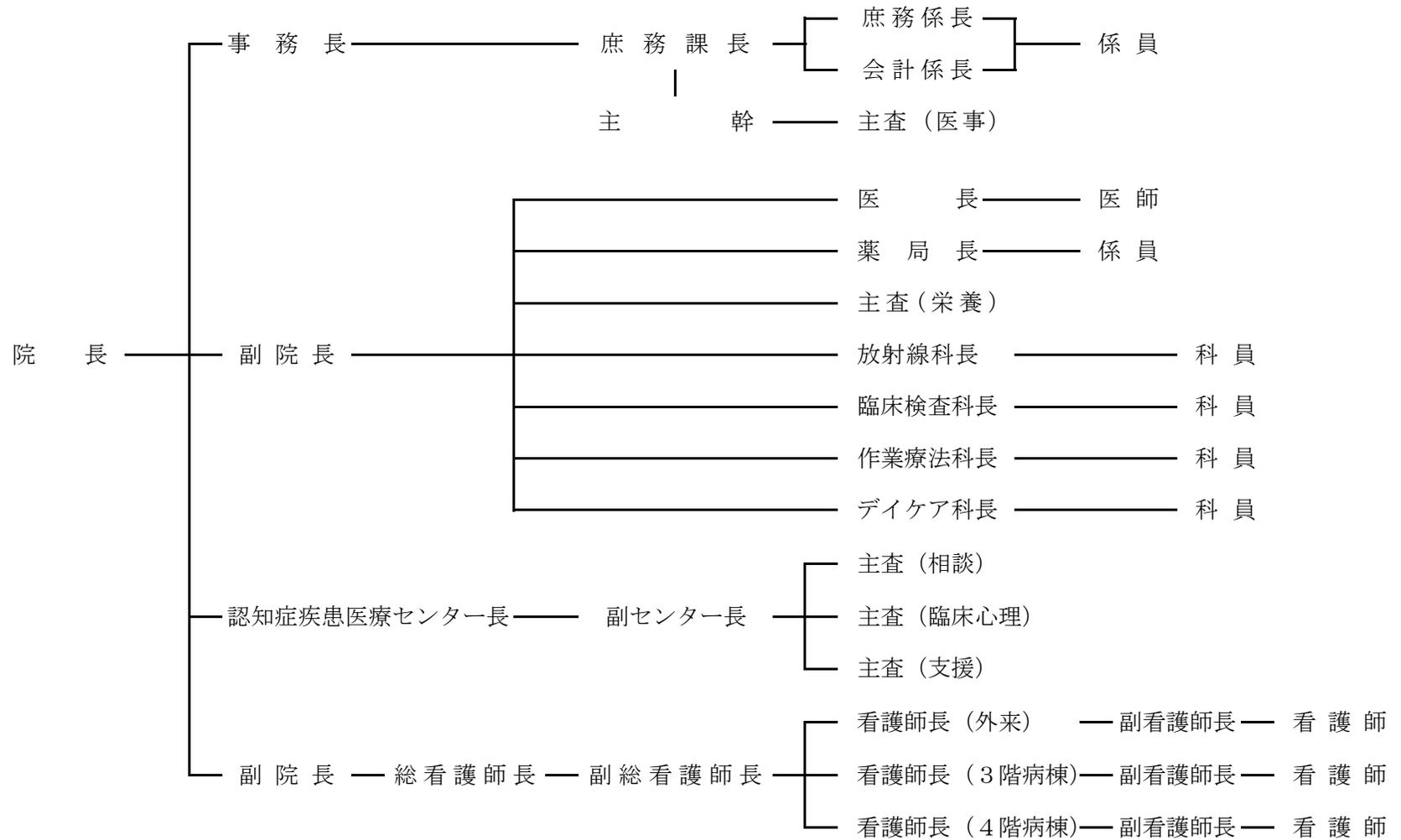
3 施設概況 (2016年6月20日現在)

- (1) 所在地 網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号
- (2) 敷地面積 27,220.12㎡
- (3) 施設 病 院 鉄筋コンクリート造4階・地下1階建て
延面積 6,187.95㎡
デイケア棟 鉄筋コンクリート造地上2階・地下1階建て
延面積 886.18㎡

4 診療概要 (2016年6月20日現在)

- (1) 診療科目 精神科
- (2) 病床数 105床
3階病棟(開放・閉鎖)56床 4階病棟(閉鎖)49床
- (3) デイケア 定員50名
- (4) 指 定 保険医療機関、生活保護法指定医療機関、国民健康療養取扱機関、
労災保険指定医療機関、応急入院指定医療機関、
結核予防法指定医療機関、精神科救急施設等指定医療機関、
医療観察法指定通院医療機関、指定自立支援医療機関(精神通院医療)
- (5) 看護体制 入院基本料 15:1(看護配置加算70%以上)、看護補助加算2

5 組織機構図



(2016年6月20日現在)

6 職員数

2016年6月20日現在

職 種 配置箇所	医	看	准	薬	放	臨	栄	作	心	P	事	運	ボ	公	調	そ	合
	師	護	看	劑	射	床	養	業	理	S	務	転	イ	務	理	の	計
	師	師	護	師	線	検	士	療	判	W	員	技	ラ	補	員	他	
医 局	5 (1)																5 (1)
看 護	外 来	11															11
	3 階病棟	29															29
	4 階病棟	15															15
薬 局				2												(1)	2 (1)
主査(栄養)							1										1
放 射 線 科					2												2
臨床検査科						2											2
作業療法科	(兼)							1									1
ダイケア科		1						1		1							3
庶 務 課											8		(兼)				8
認知症疾患 医療センター	(兼)	(兼)							2	1							3
合 計	5 (1)	56		2	2	2	1	2	2	2	8					(1)	82 (2)

※ 院長及び副院長は医局に、事務長は庶務課、副院長兼総看護師長・副総看護師長は外来に計上

※ ()は、医師は非常勤委嘱医、その他は一般職非常勤職員であり、外数

※ 臨時職員は含まない。

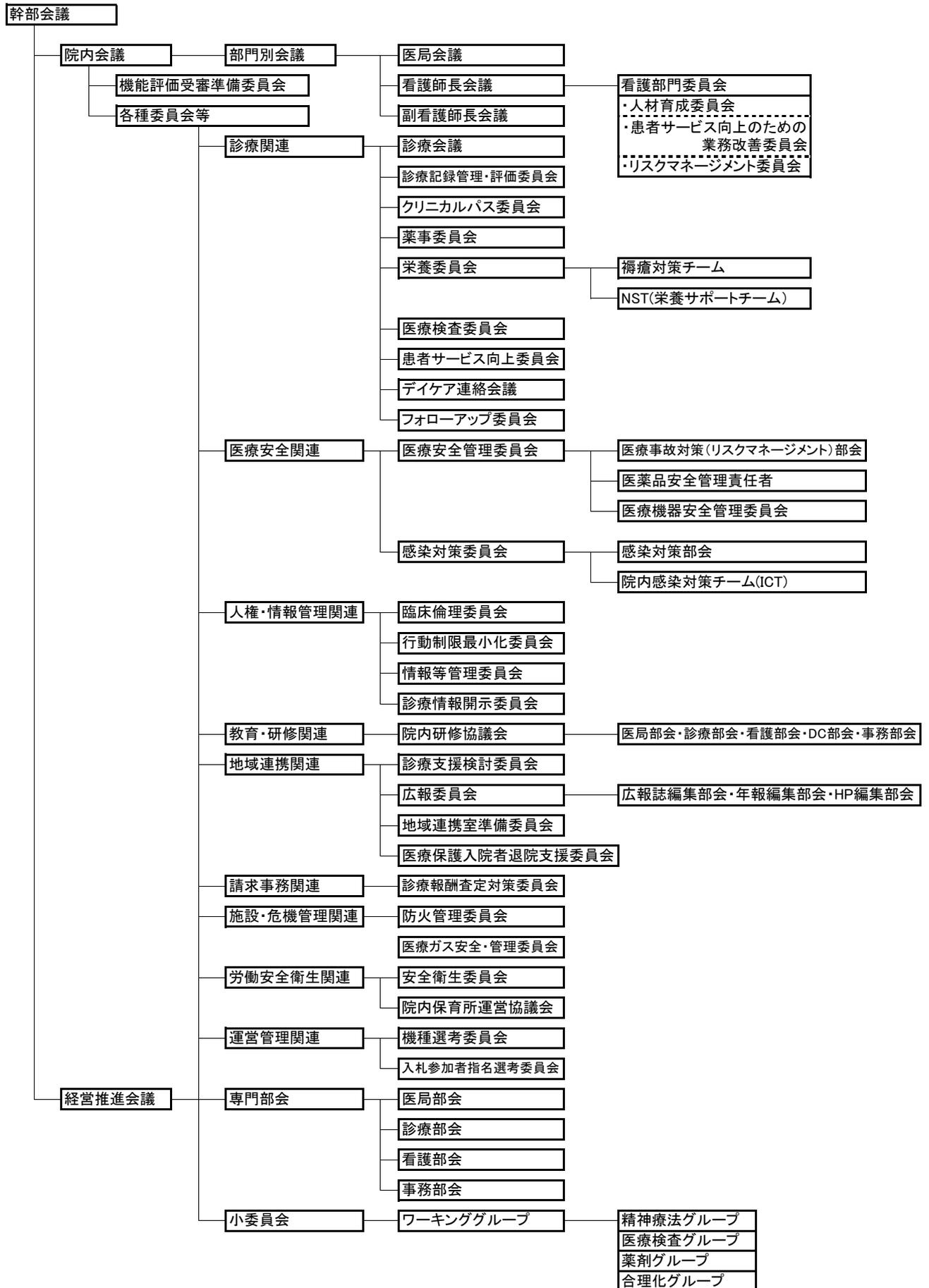
7 院内各種会議・委員会等の設置状況

(2016年4月1日現在)

名 称	所 掌 事 項
幹 部 会 議	病院の管理運営に関する事
院 内 会 議	病院の運営その他連絡調整に関する事
経 営 推 進 会 議	北海道病院事業改革プランの推進に関する事
医 局 会 議	医師の業務の連絡調整に関する事
看 護 師 長 会 議	看護業務の管理運営に関する事
副 看 護 師 長 会 議	看護部門の実践業務に関する事
診 療 会 議	医療業務の連絡調整に関する事
診療記録管理・評価委員会	診療記録の作成、保存・管理及び評価に関する事
クリニカルパス委員会	クリニカルパスの導入と運用・管理に関する事
薬 事 委 員 会	医薬品の採用、管理その他薬事に関する事
栄 養 委 員 会	栄養指導、患者給食及び食中毒予防に関する事
褥 瘡 対 策 チ ー ム	褥瘡対策に関する事
NST(栄養サポートチーム)	栄養管理対策に関する事
医 療 検 査 委 員 会	医療検査の適正化に関する事
患者サービス向上委員会	患者さまへのサービスの向上に関する事
デ イ ケ ア 連 絡 会 議	デイケアの運営に関する事
医 療 安 全 管 理 委 員 会	医療の安全管理対策の総合的な企画、実施に関する事
医療事故対策(リスクマネジメント)部会	医療事故の調査、研究その他医療事故の防止に関する事
医 薬 品 安 全 管 理 責 任 者	医薬品の安全管理に関する事
医 療 機 器 安 全 管 理 責 任 者	医療機器の安全管理に関する事
感 染 対 策 委 員 会	院内感染防止体制の確立、対策の推進に関する事
感 染 対 策 部 会	院内感染の予防対策に関する事
院 内 感 染 対 策 チ ー ム	具体的、実践的院内感染対策の実行
臨 床 倫 理 委 員 会	臨床における倫理に関する事
行 動 制 限 最 小 化 委 員 会	行動制限の適正性の確保と最小化に関する事
情 報 等 管 理 委 員 会	院内情報の総合的管理に関する事
診 療 情 報 開 示 委 員 会	診療情報の開示に関する事
院 内 研 修 協 議 会	院内研修会に関する事
診 療 支 援 検 討 委 員 会	医療機関への診療支援に関する事
広 報 委 員 会	病院の広報に関する事
フ ォ ロ ー ア ッ プ 委 員 会	入院・外来患者さまの地域支援、長期入院患者さまの退院支援
地 域 連 携 室 準 備 委 員 会	地域の医療・福祉・行政機関等との連携に関する事
医 療 保 護 入 院 者 退 院 支 援 委 員 会	入院期間の適正化・退院支援に関する事
診 療 報 酬 査 定 対 策 委 員 会	診療報酬に係る査定等に関する事
防 火 管 理 委 員 会	防火管理に関する事
医 療 ガ ス 安 全 ・ 管 理 委 員 会	医療ガス設備の安全管理に関する事
安 全 衛 生 委 員 会	職員の安全衛生、健康管理及び職場環境に関する事
院 内 保 育 所 運 営 協 議 会	院内保育所の運営に関する事
機 種 選 考 委 員 会	医療機器等の機種を選考等に関する事
入 札 参 加 者 指 名 選 考 委 員 会	指名競争入札等の参加者の指名選考に関する事

会議・委員会等組織図

2016年4月1日現在



第2 業務概要

1 医 局

現在医師5名（精神保健指定医2名）にて院内の診療に当たっている。その他、個々の症例のカンファレンスに加え、各部署の代表者からなる会議、委員会、ワーキンググループへの参加を通じて、院内の他職種と連携を図っている。

院外においては移動精神保健相談、保健所、看護学院、刑務所などで診療、教育、啓発活動を実践している。長期入院患者の退院を積極的に支援する流れが広まり、地域生活支援センター、地域の保健師、訪問看護ステーション、グループホーム、共同作業所などと連携を取りながら、院外での患者の生活支援を検討し、退院促進にも努めている。

なお、外来診療は主治医制を基本とした予約制を導入しており、待ち時間の短縮並びに診察内容の充実を図っている。

(1) 医師配置状況(2016年6月20日現在)

病院長 佐々木 信 一
副院長 中 村 一 朗
医 長 幡 賢
医 長 高 信 径 介
医 師 吉 田 雄 介

(2) 外来診察医(2016年6月20日現在)

曜日	Ⅳ 診	Ⅲ 診	Ⅱ 診	Ⅰ 診	午後Ⅳ診	午後Ⅱ診
月	佐々木	中 村	幡		—	—
火	佐々木	幡	吉 田		中 村	高 信
水	佐々木	幡	高 信	吉 田	—	—
木	佐々木	中 村	高 信		幡	吉 田
金	中 村	高 信	吉 田		—	—

■ 枠は新患担当

(3) 担当医(2016年6月20日現在)

外来・デイケア 中 村 副院長
3階病棟 高 信 医 長
4階病棟 幡 医 長

(4) 勤務体制

病棟・・・3交代制、複数夜勤、遅出勤務

(5) 入院基本料

入院基本料 15：1

看護配置加算（看護師70%以上）

看護補助加算 2 50：1

(6) 運営概要

① 看護職員関連

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
離職率 (%)	8.1	11.4	7.9	17.5	7.0
平均勤続年数(年)	17.2	16.6	16.5	13.1	11.3
平均年休取得率 (%)	46.8	68.4	52.5	49.3	33.7
平均代休取得率 (%)	85.7	84.4	100	100	100
病気休暇取得率 (%)	0.7	0.7	1.02	1.06	0.57

(年休取得率=当該年度の取得日数/当該年度の付与日数) 前年度からの繰越日数は含まない

② 医療安全関連

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
アクシデント発生率 (%) (アクシデント=レベル2以上)	34.0	32.7	6.0	12.6	13.9
針刺し事故発生件数 (件)	0	0	0	0	0
公務災害認定発生件数 (件)	0	1	0	2	0
隔離率 (%)	0.5	0.4	4.2	2.72	5.47
拘束率 (%)	0.3	0.2	2.6	1.05	4.24
褥瘡発生率 (%)	0.03	1.32	8.4	11	3.18

*2012年度より褥瘡発生率変更

褥瘡発生率=当月の褥瘡発生者数÷当月の入院患者数+前月の在院患者数

*2013年度より医療事故等のレベル基準を改正

*2013年度より隔離率・拘束率変更

隔離率=延べ隔離日数÷延べ患者数

拘束率=延べ拘束日数÷延べ患者数

(6) 病棟の概要 (2015年度 改築前)

病棟名	概要
第1病棟	<p>病棟は35床の開放病棟で一部閉鎖フロアを有し、主に老年期精神疾患患者が対象になっている。開放フロアは酸素・吸引のパイピング設備があり、身体合併症患者の管理を行っている。</p> <p>現在の疾病構成は、認知症71%、慢性期の統合失調症24%、その他疾患5%で患者の86%が65歳異常の高齢者が占めている。患者は認知症の中等度から重度の症状を呈し、周辺症状である行動障害やせん妄の精神症状を伴い、薬物療法を中心に治療を行っている。また、患者の65%は糖尿病・心疾患等の身体疾患を合併し、他科の治療を受けている。平均在院日数は、159.3日（2015年度）である。</p> <p>患者の多くは、自ら身体不調を訴えることが困難なことが多いため、異常の早期発見、転落、転倒等安全面への配慮に努めている。また、合併症等による基礎疾患や薬物による副作用などで全身状態が変化しやすく、全身管理が必要となっている。日常生活能力の低下防止を目的とした作業療法プログラムとし、音楽鑑賞や運動を実施している。</p> <p>退院に向けた支援では、患者に適した生活環境の提供のため本人・家族と相談し、退院前訪問の実施や施設職員・ケアマネージャーとの情報交換など地域と連携を図っている。</p>
第2病棟	<p>54床を有する男女混合の開放病棟で、入院患者の約56%（2015年度）は統合失調症の患者が占め、その他に感情障害、神経症、依存症、人格障害などの患者が入院している。</p> <p>平均在院日数は130.9日（2015年度）で、1年以上の長期入院患者が40%をしめている。長期入院患者の退院支援は、他職種や地域関係職種と連携し実施している。看護の対象は主に薬物調整や休息目的の患者、急性期治療を終えたりハビリ目的の転入患者である。患者参加型看護計画を実施し、病状安定に向けた生活援助を実践し、患者の回復能力を高めるよう支援している。また、作業療法士など他職種と連携しながらセルフケア能力や対人関係能力などの向上を目的に実施している。退院に向けた取り組みは精神保健福祉士や地域関係者と連携しカンファレンスや退院前訪問看護を実施している。</p>
第3病棟	<p>隔離室2室を有する54床の閉鎖病棟である。83%（2015年度）が統合失調症の患者で他には鬱病などの気分障害、神経症、依存症、人格障害、認知症などで構成されている。主に急性期症状を呈している患者や統合失調症の慢性期でセルフケア能力が低下したり再燃・緩解を繰り返す病状が不安定な患者の入院治療を行っている。</p> <p>平均在院日数は131日（2015年度）だが、慢性期の患者の場合、病状の再燃を繰り返し入院が長期化している。長期入院に伴い、患者や家族の高齢化が進み、外泊・面会などの機会も少なく、退院が困難になってきている。更に、生活習慣病等の身体疾患や合併症が重なり、セルフケア能力の低下や全身管理の必要な患者が増加し、治療・看護へのニーズが多様化してきている。</p> <p>退院支援として、作業療法やSST（社会生活技能訓練）等、他職種との連携を図り、対人関係能力の向上や日常生活課題の改善に向けて取り組んでいる。デイケアの院内試験通所や退院前訪問看護、地域との連携を実施し、退院後安定した生活を送れるように支援している。</p>

(7) 外来の概要

入院治療重視から地域での支援が重視され、怠薬による病状の悪化を防ぐための服薬指導や地域での生活支援へと外来の役割が拡大されつつある。

診療体制は患者のサービス向上を目的とし2010(平成22)年6月から再来患者の完全予約診療を行っている。午前3診療(水曜日のみ4診療)、火・木曜日は午後の診療も行っている。

看護の主な業務は、診療介助、訪問看護、院内の医材料一元管理のため中央材料室を担当している。中央材料室業務は、各セクションの医療衛生材料及び器材の管理を行っている。

訪問看護は週5回実施している。看護計画を作成し患者の病状変化に合わせて実施している。不定期で行っていた市外訪問は、地域支援の充実拡大を図るため地域の要望を踏まえ2007年度から定期的実施し、訪問件数が増加している。

2015(平成27)年度については、訪問看護対象者は187名で、訪問看護件数は2189件となっている。

地域との連携では、作業所・共同住居及び保健・福祉関係者とのサポート会議・ヘルパー会議などの運営への参加、デイケア会議への情報提供、AAの支援など啓蒙活動を行っている。

外来訪問看護件数の推移

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
2010年度	61	63	66	70	65	73	72	72	71	72	73	83	841	70.1
2011年度	83	78	98	116	125	114	128	125	150	145	147	145	1454	121.2
2012年度	150	159	165	167	168	163	169	161	144	153	161	167	1927	160.6
2013年度	175	170	172	181	185	189	191	187	186	186	165	185	2172	181.0
2014年度	187	188	185	182	176	179	188	182	164	177	177	177	2162	180.2
2015年度	185	176	190	189	185	187	191	191	186	166	172	171	2189	182.4

3 薬局部門

(1) 医薬分業

1998年6月から全面院外処方となり、平均で約99%の発行率となっています。

(2) 処方箋件数

ア 外来総件数と院外処方発行件数

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
院 外 処 方	26,050	24,807	24,309	23,751	23,186
院 内 処 方	60	58	56	63	65
総 件 数	26,110	24,865	24,365	23,814	23,251

イ 1日平均調剤数の推移（院内）

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2014年度
処方箋枚数	入 院	7,508	7,494	6,870	7,258	6,692
	外 来	60	58	56	63	65
	計	7,568	7,552	6,926	7,321	6,757
調 剤 数	入 院	20,990	21,995	20,913	21,863	23,025
	外 来	193	170	153	148	170
	計	21,183	22,165	21,066	22,011	23,195
延調剤数	入 院	165,031	169,972	166,509	173,073	176,510
	外 来	4,896	4,759	4,240	3,647	4,448
	計	169,927	174,731	170,749	176,720	180,958
1日平均 調 剤 数	入 院	57.5	60.2	57.3	59.9	63.0
	外 来	0.8	0.5	0.4	0.4	0.5
	計	58.3	60.7	57.7	60.3	63.5

ウ 月別注射処方箋発行枚数（2015年度）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
件数	387	351	606	556	440	371	386	315	497	302	290	352	4,853

(3) 薬剤管理指導業務(2015年度)

薬剤管理指導料の算定につきましては常勤薬剤師が1名の為算定していません。
 薬剤管理指導業務は常勤薬剤師が2名になり次第開始予定としています。
 医薬品等の情報提供についてはDrug newsを定期的に発行し関係各部署に
 配布しています

(4) 各分野で院内の様々な委員会活動に参加しています。

診療委員会/薬事委員会/医療安全委員会/感染対策委員会・・・など

4 栄養指導部門

(1) 業務概況

2012年診療報酬の改定に伴い、栄養管理実施加算が廃止され、栄養管理体制は入院基本料に包括評価となった。このことを受けて当院では入院患者全員に栄養計画及び栄養評価を行っている。

また褥瘡対策チーム・栄養サポートチームの一員として医師や看護師その他の職種と連携して低栄養、嚥下障害などに対応している。

摂食嚥下障害のある患者さんが近年増加傾向にあるので、患者さん個々の嚥下状態に合った食事作りに力を入れている。

2012年6月から献立作成、調理業務全てを外部委託している。

(2) 特別食

身体合併症のある患者さんには特別食を提供している。種類は糖尿病食、肝臓食、腎臓食、膵臓食、貧血食、心臓食、低残渣食などである。菓子や清涼飲料水の多量摂取による高中性脂肪血症や肥満の患者さんが多い傾向である。

(3) 行事食

正月・節句・春秋の彼岸等、季節ごとの行事食のほか、月1回「おやつの日」をもうけている。

また、毎月1回、誕生会として入院患者さんにお菓子を提供し誕生月の方にはバースディカードを添えている。

(4) 選択食メニュー

選択メニューは週3回、昼食と夕食について実施している。

(5) 栄養指導

栄養指導が必要な患者さんには精神症状などで困難な場合を除き、栄養指導を実施している。高度肥満症、糖尿病、アルコールパルスなどが主な指導である。集団栄養指導は主にデイケア通所者を対象に行っており、月1回程度デイケアプログラム「食と健康の講座」と称して、食事、運動など通所者が健康生活に役立つ内容で行っている。

(6) 食種別給食数(デイケア食含む)

(単位：食)

	常食	軟菜食	流動食	経管流動	特別食	合計
2011年度	54,528	43,180	370	2,092	17,127	117,297
2012年度	50,977	51,656	332	1,758	15,701	120,424
2013年度	45,517	48,905	528	1,758	21,778	118,352
2014年度	51,394	43,469	51	995	17,000	112,909
2015年度	36,274	47,470	752	1,012	19,640	105,148

(7) 1食当たり平均給食数(デイケア食含む)

(単位：食)

	常食	軟菜食	流動食	経管加算	特別食	合計
2011年度	49.8	39.4	0.3	1.9	15.6	107.1
2012年度	46.5	47.1	0.3	1.6	14.3	109.9
2013年度	41.5	44.6	0.4	1.4	19.8	108.0
2014年度	46.9	39.6	—	0.9	15.5	103.1
2015年度	33.3	43.3	0.6	0.9	17.9	96.0

(8) 栄養指導件数(個別)

(単位：件)

年 度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
件 数	55	75	109	142	90

5 放射線科

(1) CT検査

CT検査は、初診時における頭部検査が主流であるが、高齢化も進み胸部・腹部の検査も増加しつつある。

2015年度は前年度に比べ、若干の減少となりました。

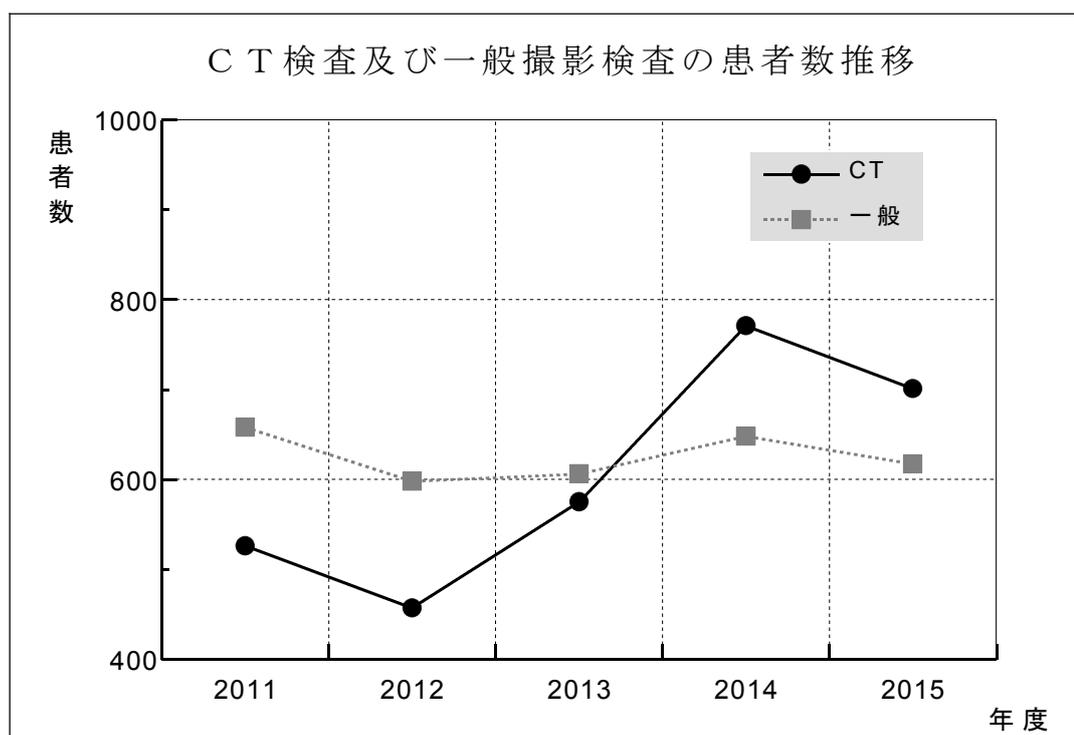
(2) 一般撮影

一般撮影検査の主たるものは、入院時における胸部・腹部単純撮影である。

2015年度は前年度に比べほんのわずか減少している。

(3) CT・一般X線撮影検査患者数の推移（2011～2015年度 単位：人）

区分	入院・外来別	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
CT検査	入院	345	295	353	397	380
	外来	181	162	222	374	321
合計		526	457	575	771	701
一般撮影	入院	579	525	493	545	516
	外来	79	73	113	103	101
合計		658	598	606	648	617



6 臨床検査科

(1) 臨床検査業務概況

① 過去5年間（2011～2015）の臨床検査業務

検査業務全般は、2005年のピークを境に以降7年間減少傾向が続いていました。2013年の外来パス検査の導入により、2年連続増加していたが2015年度においては対前年度比約10%の減となっている。

② 2015年度の臨床検査業務

2013年の外来パス検査の導入により、定着傾向にあった外来部門検査患者数が2015年度に於いては前年度比約10%減となり件数も比例し減少となっている。

細菌検査については、院内感染対策指針や感染対策マニュアルが改訂され、2008年度に外部委託となり、過去3年間は減少が抑えられ横這い状況となっている。

(2) 年度別臨床検査件数

年度	区分	生化学	免疫	血液	尿・便	細菌	薬物	生理			その他	合計
								脳波	心電図	聴力		
2011	院内	65,323	4,167	18,092	1,891	15	938	52	387	2	1	90,868
	委託	279	18	5	0	140	35	0	0	0	0	477
	合計	65,602	4,185	18,097	1,891	155	973	52	387	2	1	91,345
2012	院内	52,787	3,634	15,256	1,801	14	742	46	353	2	2	74,637
	委託	254	3	14	0	152	19	0	0	0	0	442
	合計	53,041	3,637	15,270	1,801	166	761	46	353	2	2	75,079
2013	院内	69,650	4,503	19,755	2,463	12	933	41	421	1	1	97,780
	委託	292	4	0	0	79	11	0	0	0	1	387
	合計	69,942	4,507	19,755	2,463	91	944	41	421	1	2	98,167
2014	院内	74,579	4,617	20,950	2,516	12	759	38	419	2	0	103,892
	委託	542	4	0	0	103	2	0	0	0	0	651
	合計	75,121	4,621	20,950	2,516	115	761	38	419	2	0	104,543
2015	院内	67,478	3,308	19,620	2,542	12	692	29	407	2	2	94,092
	委託	292	6	0	0	94	15	0	0	0	0	407
	合計	67,770	3,314	19,620	2,542	106	707	29	407	2	2	94,499

7 作業療法科

当院での精神科作業療法は、1994年7月に承認を得て開始となる。

医師（兼務）1名、作業療法士1名、助手（非常勤職員）1名で構成されていたが非常勤職員の退職に伴い助手の配置が2015年3月で終了となった。

作業療法の週間プログラムは、作業療法士が中心となって病棟内で行うものと、講師と共に生活療法室や訓練棟など病棟以外の場所で行うものがある。以前は月に2～3回の講師指導日のみの変則的な活動だったが、2002年4月以降は毎週実施となる。

2008年は第4病棟休床に伴い週間プログラムを変更し、定期的にカンファレンスを実施する状況となった。2009年には高齢者の増加に伴い転倒予防のプログラムとして「ふまねっと運動」を導入した。病棟看護師で実施していたSSTだが2015年から作業療法士も加わるようになりグループホームやケアホームなどの施設を見学するなどし長期入院者が退院後の生活を現実的に考えられるよう取り組んだ。

入院病棟全体行事「たなばた祭」の企画・運営を行っており、都度、各病棟看護師や関係部署より実行委員を招集し会議を開催したり、必要に応じてボランティアへの連絡・調整を行っている。市内の地域活動支援センターふれ愛や地域活動支援センターニポグリラに屋台を、藤華会に踊りを依頼、地域との交流機会となった。

表1 週間プログラム(2015年4月～)

	月	火	水	木	金
10:00	創作活動 〈習字・手芸・絵画〉 2病棟ホール	2病棟 SST 生活療法室	悠々クラブ 音楽会 1病棟ホール	2病棟 ふまねっと運動 2病棟ホール	体力作り プレイルーム
12:00					
13:30	3病棟 ふまねっと運動 3病棟ホール	認知症OT 1病棟ホール	調理 生活療法室	3病棟 SST プレイルーム	(カンファレンス) 悠々クラブ 体作り 1病棟ホール
15:30					

表2 活動状況

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
開催日数		231	234	228	232	224
参加数		5,153	5,644	5,360	4,801	5,173
算定数		4,626	5,047	4,877	4,406	4,980
一 日 平 均	参加数	22.3	24.1	23.5	20.7	23.1
	算定数	20.0	21.6	21.5	19.0	22.2

8 デイケア科

当院デイケアは、オホーツク医療圏では初めて開設され、1996年7月1日に本格的に活動が開始された。2008年4月からは、デイケアショート利用を導入し、デイケアの半日利用を可能にすることにより、患者の利便性の向上を図っている。2012年1月から、水曜日も通所日にあて、平日の毎日通所（週5日）となった。

施設区分は、「病院併設型・大規模デイケア」とされ、定員50名となっている。スタッフは、医師(兼務)1名、看護師1名、精神保健福祉士1名、作業療法士1名、心理判定員1名の合計5名で構成され、加えてプログラム講師8名を外部に委嘱している。2004年度より固定ボランティアを導入、現在、3名が在籍している。

(1) 通所者（メンバー）

表1 利用者数 (単位：日、人)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
開 所 日 数	202	245	242	241	239
延 べ 通 所 者 数	6,398	7,797	8,711	9,045	8,413
1 日 平 均 通 所 者 数	31.7	31.8	36.0	37.5	35.2
新 規 登 録 者 数	13	12	8	5	9
登 録 者 数	92	93	85	77	86
男 性	63	64	61	56	62
女 性	29	29	24	21	24

表2 疾病別 (単位：人)

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
統 合 失 調 症	77	74	67	69	72
躁 う つ 病	3	3	3	3	2
て ん か ん	3	3	3	3	2
薬 物 依 存	3	3	2	1	1
非 定 型 精 神 病	0	0	0	0	0
そ の 他	6	10	10	11	9

(2) デイケアプログラム

木曜午後は月に1回、「グループミーティング」、「茶道」「食と健康の講座」（管理栄養士の話）を実施しており、自主活動の中で、毎日「ダンベル体操」を行っている。行事としては、「デイケア展」、「クリスマス会」をメンバーと検討しながら行った。不定期に、メンバー主体で発案した行事（芝桜見学、写生会、収穫祭）も開催している。

表3 週間プログラム(2015、12月現在)

	月	火	水	木	金
9:00	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会	朝 の 会
10:00	陶 芸	絵画・農耕	フットサル	ス ポ ー ツ	福祉の店
12:00	自 主 活 動	自 主 活 動	自 主 活 動	自 主 活 動	自 主 活 動
	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
13:00	料 理 自 主 活 動	全 体 ミ ー テ ィ ン グ S S T	手 芸 自 主 活 動	週 替 プ ロ グ ラ ム	七 宝 自 主 活 動
15:00					
16:00	終 わ り の 会	終 わ り の 会	終 わ り の 会	終 わ り の 会	終 わ り の 会

9 臨床心理業務

臨床心理業務は、心理学の知識や技法をベースとして、患者の心理・行動面の障害の治療や援助を行うものである。具体的には以下のとおり、心理アセスメントの一つとしての心理検査や各種の心理療法の提供などが挙げられる。

認知症疾患医療センターの配属として、もの忘れ外来にて認知症の鑑別診断や認知機能の確認のための認知機能検査を行う他に、一般外来や入院患者に対しても認知機能検査を実施している。また、認知症以外の患者に対しても知能検査や人格検査などの心理検査やカウンセリング業務を行っている。

さらに、平成15年度から継続している児童発達外来サテライト診療として、対象者や家族への対応を継続している。

(1) 心理検査 及び 認知機能検査

心理検査は、知能検査を中心に、各種人格検査や認知機能検査を実施することで、診断や治療、リハビリテーション等のための重要な情報の一つになる。

認知機能検査は、認知症の鑑別診断として、また認知機能の程度を把握していくために実施している。限られた時間内に患者の負担少なく効率よく行うために、検査バッテリーの組み方を検討しながら実施している。

表1 今年度実施した主な心理検査

WAIS-Ⅲ成人知能検査	WISC-Ⅲ知能検査	全訂版田中ビネー知能検査
リバーミード行動記憶検査	BADS	ロールシャッハテスト
ベンダーゲシュタルトテスト	PFスタディ	バウムテスト
Y-G性格検査	K-SCT構成的文章完成法	AQ

今年度実施した認知機能検査

ADAS	ベントン視覚記銘検査	前頭葉機能検査(FAB)
時計描画テスト	N P I	ノイズパレイドリアテスト

表2 心理検査件数

(人)

	認知症検査				一般心理検査			合計
	外来	もの忘れ外来	入院	小計	外来	入院	小計	
2013年度				21			38	59
2014年度	28	79	23	130	30	23	53	183
2015年度	11	149	25	185	31	44	75	260

*2013年度はデータの内訳は不明

(2) 個人心理療法

個人心理療法は、支持的カウンセリングを主体に、認知行動療法的技法などを取り入れながら実施している。対象者は主に統合失調症圏以外の患者であり、就学・就労中の方も多。週1回～月1回の頻度で実施している。自分自身を客観的に捉えていく自己分析力を高め、コーピング力を身につけていくことが目標である。

表3 個人心理療法の件数

	外来患者	入院患者	合計
2013年度	80	28	108
2014年度	273	37	310
2015年度	291	14	305

(3) 児童発達外来サテライト診療

発達障害圏の7名の対象者に対して 毎月第4木曜日に継続実施している。主に母親に対して、対象となるお子さんの日常生活行動に対する対応の仕方等についての指導が中心である。

実施回数：12回 54件

10 認知症疾患医療センター

北海道立向陽ヶ丘病院認知症疾患医療センターは、オホーツク三次保健医療福祉圏の認知症疾患の保健医療水準向上を図るためのものであり、具体的には保健・医療・福祉・介護機関等と連携し、鑑別診断、急性期医療、専門医療相談等を実施するとともに、関係者への研修等を行うこととしています。

当センターに来院される患者様は、記憶を失っていく自分に不安を感じたり、プライドが傷つきやすくなっていたり、感情が鋭敏になっているなど、患者様それぞれに不安や緊張をお持ちです。そのような方に対して、人生を懸命に生きている一人の人として尊重し、患者様の世界やリズムに合わせながら、安心して受診できるよう対応させていただいています。

<実績>

1 もの忘れ外来における診療について

単位：人

	新規患者	専門医療相談	急性期入院	医療機関からの紹介
2014年度	149	187	8	45
2015年度	166	184	10	45

2 もの忘れ外来新規患者各内訳

1) 居住地

単位：人 (%)

	網走市	斜里町	清里町	小清水町	大空町	その他
2014年度	87 (58)	27 (18)	8 (5)	4 (3)	6 (4)	17 (12)
2015年度	96 (59)	30 (18)	4 (2)	7 (4)	10 (6)	19 (11)

2) 年齢

単位：人 (%)

	～50	60～	70～	80～	90～
2014年度	4 (3)	8 (5)	57 (38)	65 (44)	15 (10)
2015年度	5 (3)	13 (8)	40 (24)	80 (48)	28 (17)

3) 疾患

単位：人 (%)

	アルツハイマー型認知症	血管性認知症	前頭側頭型認知症	レビー小体型認知症	混合性認知症	軽度認知障害	その他
2014年度	106 (71)	5 (4)	4 (3)	2 (1)	1 (1)	5 (3)	26 (17)
2015年度	113 (68)	7 (4)	1 (1)	5 (3)	1 (1)	4 (2)	35 (21)

3 専門医療相談内容

単位：人 (%)

	もの忘れ外来受診	病状・症状	その他
2014年度	158 (85)	16 (8)	13 (7)
2015年度	171 (93)	7 (4)	6 (3)

4 地域啓蒙活動について

- 1) 老人クラブ各会員向け 11件 (網走市駒北3・4老人クラブ他)
- 2) 地域住民向け講演会 5件 (網走市寿大学他)
- 3) 関係団体関係者向け 4件 (網走4・5町内会婦人部他)
- 4) イベント参加 2件 (大空町ふれあい広場他)

5 研修会の開催について

- 1) 研修会講師派遣 1件 (網走市 認知症医療を地域で考える会)
- 2) 医療及び介護関係者等への研修会
1件 (認知症疾患医療センター 認知症疾患事例検討会)

第3 診療概況

1) 年度別、病棟別入院患者動態

(入院患者数、1日平均患者数、入退院患者数、病床利用率、平均在院日数)

病棟 (病床数)	区 分	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
第1病棟 (35)	延入院患者数	9,193	8,882	8,802	9,631	9,144
	1日平均患者数	25.1	24.3	24.1	26.4	25.0
	入院患者数	53	54	77	73	51
	退院患者数	58	66	74	63	63
	病床利用率	71.8	69.5	68.9	75.4	71.4
	平均在院日数	164.6	146.9	115.6	140.7	159.3
第2病棟 (57)	延入院患者数	14,987	16,178	14,495	12,892	11,233
	1日平均患者数	40.9	44.3	39.7	35.3	30.7
	入院患者数	98	78	72	67	61
	退院患者数	111	95	100	115	109
	病床利用率	71.8	77.8	69.7	62.0	53.8
	平均在院日数	142.4	185.9	167.4	140.4	130.9
第3病棟 (54)	延入院患者数	14,780	15,407	15,504	14,531	13,906
	1日平均患者数	40.4	42.2	42.5	39.8	38.0
	入院患者数	107	106	105	111	121
	退院患者数	86	84	82	67	90
	病床利用率	74.8	78.2	78.7	73.7	70.4
	平均在院日数	152.3	161.3	164.9	162.5	131.0
合計 (146)	延入院患者数	38,960	40,467	38,801	37,054	34,283
	1日平均患者数	106.7	110.9	106.3	101.5	93.9
	入院患者数	258	238	254	251	233
	退院患者数	255	245	256	245	262
	病床利用率	53.2	75.9	72.8	69.5	64.3
	平均在院日数	150.9	166.6	151.2	148.4	137.5

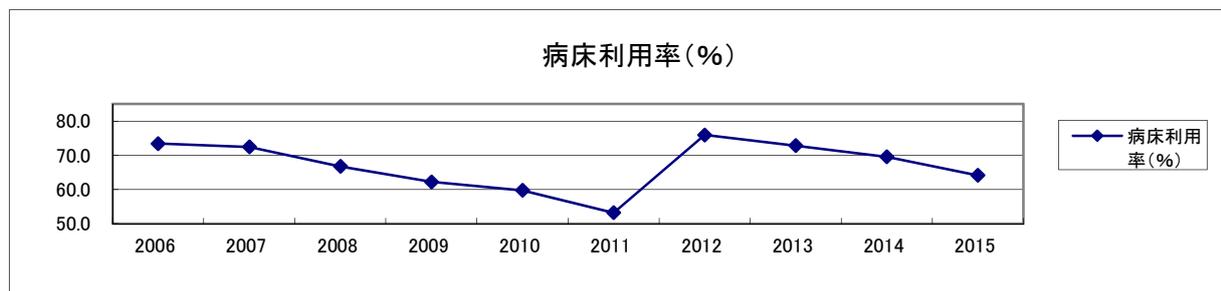
※ 2011年度の病床利用率は、許可病床ベース（200床）のもの

年間の患者動態

延入院患者数・1日平均患者数・入院患者数・病床利用率・平均在院日数 (2006～2015年度)

区分	延入院患者数	1日平均患者数	入院患者数	退院患者数	病床利用率(%)	平均在院日数
2006	53,607	146.9	372	387	73.4	140.2
2007	52,880	144.9	396	397	72.4	132.4
2008	48,874	133.5	311	334	66.8	150.5
2009	45,429	124.5	336	327	62.2	136.1
2010	43,643	119.6	258	270	59.8	164.3
2011	38,960	106.4	258	255	53.2	150.9
2012	40,467	110.9	238	245	75.9	166.6
2013	38,801	106.3	254	256	72.8	151.2
2014	37,054	101.5	251	245	69.5	148.4
2015	34,283	93.7	233	262	64.2	137.5

(注) 2012年3月15日、許可病床数を200床から146床へ変更



2-1 新入院患者の病名別・形態別患者数及び割合

2011年度

(単位：人)

病名	措置入院	医療保護 入院	任意 入院	その他	合計
F00 アルツハイマー型認知症		34	8		42
F01 血管性認知症		5	1		6
F02 その他の疾患による認知症		5			5
F05 せん妄		8	1		9
F0 (上記以外の疾患)		4	1		5
F10 アルコール使用による障害		1	5		6
F1 (上記以外の疾患)		2	4		6
F20 統合失調症		44	57		101
F2 (上記以外の疾患)		2	1		3
F30 躁病エピソード		2	1		3
F31 双極性感情障害		19	5		24
F32 うつ病エピソード		13	3		16
F33 反復性うつ病性障害		8	2		10
F3 (上記以外の疾患)			2		2
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			4		4
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害			1		1
F44 解離性(転換性)障害			3		3
F45 身体表現性障害			2		2
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害		1			1
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		3			3
F7 精神遅滞					
F84 広汎性発達障害		5			5
F8 (上記以外の疾患)			1		1
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん					
その他					
合計		156	102		258
構成比%		60.5	39.5		100.0

2012年度

(単位：人)

病名	措置入院	医療保護 入院	任意 入院	その他	合計
F00 アルツハイマー型認知症		28	6		34
F01 血管性認知症		6	2		8
F02 その他の疾患による認知症		9			9
F05 せん妄		7	5		12
F0 (上記以外の疾患)		3	1		4
F10 アルコール使用による障害		1	9		10
F1 (上記以外の疾患)		1	5		6
F20 統合失調症		27	58		85
F2 (上記以外の疾患)			2		2
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		9	17		26
F32 うつ病エピソード		1	10		11
F33 反復性うつ病性障害			2		2
F3 (上記以外の疾患)			2		2
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			5		5
F42 強迫性障害			1		1
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1	2		3
F44 解離性(転換性)障害					
F45 身体表現性障害			2		2
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害			1		1
F51 非器質性睡眠障害			1		1
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		1			1
F7 精神遅滞		2	2		4
F84 広汎性発達障害			1		1
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)		1			1
G40 てんかん		2	4		6
その他		1			1
合計		100	138		238
構成比%		42.0	58.0		100.0

2013年度

(単位：人)

病名	措置入院	医療保護 入院	任意 入院	その他	合計
F00 アルツハイマー型認知症		51	7		58
F01 血管性認知症		7	6		13
F02 その他の疾患による認知症		1	5		6
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)		2	6		8
F10 アルコール使用による障害		6	7		13
F1 (上記以外の疾患)					
F20 統合失調症	4	27	48		79
F2 (上記以外の疾患)					
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		4	7		11
F32 うつ病エピソード		2	2		4
F33 反復性うつ病性障害					
F3 (上記以外の疾患)		9	19		28
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			2		2
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1			1
F44 解離性(転換性)障害					
F45 身体表現性障害					
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害			2		2
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		2			2
F7 精神遅滞		7	1		8
F84 広汎性発達障害					
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		4	2		6
その他		9	2		11
合計	4	134	116		254
構成比%	1.6	52.8	45.7		100.0

2014年度

(単位：人)

病名	措置入院	医療保護 入 院	任 入 意 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		37	10		47
F01 血管性認知症		7	4		11
F02 その他の疾患による認知症		9	3		12
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)					
F10 アルコール使用による障害		3	11		14
F1 (上記以外の疾患)			3		3
F20 統合失調症		39	49		88
F2 (上記以外の疾患)		2	2		4
F30 躁病エピソード					
F31 双極性感情障害		4	14		18
F32 うつ病エピソード		4	13		17
F33 反復性うつ病性障害			2		2
F3 (上記以外の疾患)		1	1		2
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害		1	6		7
F42 強迫性障害					
F43 重度ストレス反応及び適応障害					
F44 解離性(転換性)障害					
F45 身体表現性障害		2	4		6
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害		2	1		3
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		3	3		6
F7 精神遅滞			2		2
F84 広汎性発達障害		1			1
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん		1	1		2
その他		3	1		4
合 計		121	130		251
構成比%		48.2	51.8		100.0

2015年度

(単位：人)

病名	措置入院	医療保護 入 院	任 意 入 院	その他	合 計
F00 アルツハイマー型認知症		40	7		47
F01 血管性認知症		6	4		10
F02 その他の疾患による認知症		3	1		4
F05 せん妄		2			2
F0 (上記以外の疾患)					
F10 アルコール使用による障害		4			4
F1 (上記以外の疾患)		1	1		2
F20 統合失調症	1	42	42		85
F2 (上記以外の疾患)		3	4		7
F30 躁病エピソード		1			1
F31 双極性感情障害		11	10		21
F32 うつ病エピソード		9	19		28
F33 反復性うつ病性障害		1	2		3
F3 (上記以外の疾患)			1		1
F40 恐怖性不安障害					
F41 他の不安障害			4		4
F42 強迫性障害		1			1
F43 重度ストレス反応及び適応障害		1			1
F44 解離性(転換性)障害			2		2
F45 身体表現性障害					
F4 (上記以外の疾患)					
F50 摂食障害					
F51 非器質性睡眠障害					
F5 (上記以外の疾患)					
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害		2	1		3
F7 精神遅滞		2	2		4
F84 広汎性発達障害					
F8 (上記以外の疾患)					
F90 多動性障害					
F9 (上記以外の疾患)					
G40 てんかん			2		2
その他		1			1
合 計	1	130	102		233
構成比%	0.4	55.8	43.8		100.0

2-2 新入院患者の入院形態別人数と構成割合の年次推移

	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	人数	割合 (%)								
措置入院	0	0.0%	0	0.0%	4	1.6%	0	0.0%	1	0.4%
医療保護入院	156	60.5%	100	42.0%	134	52.8%	121	48.2%	130	55.8%
任意入院	102	39.5%	138	58.0%	116	45.7%	130	51.8%	102	43.8%
その他	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
合計	258	100.0%	238	100.0%	254	100.0%	251	100.0%	233	100.0%

3-1 新入院患者の病名別・年齢構成

2011年度

(単位:人)

病名 (ICD-10)	全 体							合計	占有率 (%)
	～ 19才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～		
F00 アルツハイマー型認知症					2	2	38	42	16.3
F01 血管性認知症					2		4	6	2.3
F02 その他の疾患による認知症							5	5	1.9
F05 せん妄		1		1		1	6	9	3.5
F0 (上記以外の疾患)		1		1	2		1	5	1.9
F10 アルコール使用による障害				1	1	3	1	6	2.3
F1 (上記以外の疾患)			4	1			1	6	2.3
F20 統合失調症		10	13	20	26	21	11	101	39.1
F2 (上記以外の疾患)					1		2	3	1.2
F30 躁病エピソード				3				3	1.2
F31 双極性感情障害			1	2	6	9	6	24	9.3
F32 うつ病エピソード	1	1		5	2	5	2	16	6.2
F33 反復性うつ病性障害			1		3	4	2	10	3.9
F3 (上記以外の疾患)						2		2	0.8
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害			1		2	1		4	1.6
F42 強迫性障害									
F43 重度ストレス反応及び 適応障害			1					1	0.4
F44 解離性(転換性)障害		1		1			1	3	1.2
F45 身体表現性障害				1		1		2	0.8
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害	1							1	0.4
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害		1		1			1	3	1.2
F7 精神遅滞									
F84 広汎性発達障害		5						5	1.9
F8 (上記以外の疾患)		1						1	0.4
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)									
G40 てんかん									
その他									
合 計	2	21	21	37	47	49	81	258	100.0
構成比%	0.8	8.1	8.1	14.3	18.2	19.0	31.4	100.0	

2012年度

(単位:人)

病名 (ICD-10)	全 体							合計	占有率 (%)
	～ 19才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～		
F00 アルツハイマー型認知症						2	32	34	14.3
F01 血管性認知症				1		2	5	8	3.4
F02 その他の疾患による認知症							9	9	3.8
F05 せん妄					1	2	9	12	5.0
F0 (上記以外の疾患)					1	1	2	4	1.7
F10 アルコール使用による障害				3	3	3	1	10	4.2
F1 (上記以外の疾患)		1	4	1				6	2.5
F20 統合失調症		5	18	16	21	16	9	85	35.7
F2 (上記以外の疾患)						1	2	3	1.3
F30 躁病エピソード									
F31 双極性感情障害			1	4	5	14	2	26	10.9
F32 うつ病エピソード				3	1	3	4	11	4.6
F33 反復性うつ病性障害						2		2	0.8
F3 (上記以外の疾患)						1	1	2	0.8
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害			1			3	1	5	2.1
F42 強迫性障害							1	1	0.4
F43 重度ストレス反応及び 適応障害	1	1		1				3	1.3
F44 解離性(転換性)障害									
F45 身体表現性障害					1		1	2	0.8
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害				1				1	0.4
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害			1					1	0.4
F7 精神遅滞			1	1	1	1		4	1.7
F84 広汎性発達障害		1						1	0.4
F8 (上記以外の疾患)									
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)						1		1	0.4
G40 てんかん		1		2		2	1	6	2.5
その他							1	1	0.4
合 計	1	9	26	33	34	54	81	238	100.0
構成比%	0.4	3.8	10.9	13.9	14.3	22.7	34.0	100.0	

2013年度

(単位:人)

病名 (ICD-10)	全 体							合計	占有率 (%)
	～ 19才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～		
F00 アルツハイマー型認知症						1	57	58	22.8
F01 血管性認知症				7	1	4	1	13	5.1
F02 その他の疾患による認知症					2		4	6	2.4
F05 せん妄							2	2	0.8
F0 (上記以外の疾患)						2	6	8	3.1
F10 アルコール使用による障害			3	2	2	3	3	13	5.1
F1 (上記以外の疾患)									
F20 統合失調症	1	12	12	16	13	17	8	79	31.1
F2 (上記以外の疾患)									
F30 躁病エピソード									
F31 双極性感情障害		1	1	1	3	4	1	11	4.3
F32 うつ病エピソード		1		1		1	1	4	1.6
F33 反復性うつ病性障害									
F3 (上記以外の疾患)		2		4	6	8	8	28	11.0
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害				1	1			2	0.8
F42 強迫性障害									
F43 重度ストレス反応及び 適応障害			1					1	0.4
F44 解離性(転換性)障害									
F45 身体表現性障害									
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害		2						2	0.8
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害				1			1	2	0.8
F7 精神遅滞	1	3	2	1		1		8	3.1
F84 広汎性発達障害									
F8 (上記以外の疾患)									
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)									
G40 てんかん		1		3			2	6	2.4
その他		4	3	2			2	11	4.3
合 計	2	26	22	39	28	41	96	254	100.0
構成比%	0.8	10.2	8.7	15.4	11.0	16.1	37.8	100.0	

2014年度

(単位:人)

病名 (ICD-10)	全 体							合計	占有率 (%)
	～ 19才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～		
F00 アルツハイマー型認知症						3	44	47	18.7
F01 血管性認知症				3			8	11	4.4
F02 その他の疾患による認知症						2	10	12	4.8
F05 せん妄							2	2	0.8
F0 (上記以外の疾患)									
F10 アルコール使用による障害				1	3	7	3	14	5.6
F1 (上記以外の疾患)				2	1			3	1.2
F20 統合失調症		5	11	20	21	26	5	88	35.1
F2 (上記以外の疾患)						1	3	4	1.6
F30 躁病エピソード									
F31 双極性感情障害			3		4	4	7	18	7.2
F32 うつ病エピソード		1	2	4	4	1	5	17	6.8
F33 反復性うつ病性障害						2		2	0.8
F3 (上記以外の疾患)		1	1					2	0.8
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害		1	1	1	2		2	7	2.8
F42 強迫性障害									
F43 重度ストレス反応及び 適応障害									
F44 解離性(転換性)障害									
F45 身体表現性障害	1					2	3	6	2.4
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害	1			2				3	1.2
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティ及び 行動の障害		4	1		1			6	2.4
F7 精神遅滞				2				2	0.8
F84 広汎性発達障害		1						1	0.4
F8 (上記以外の疾患)									
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)									
G40 てんかん						1	1	2	0.8
その他						3	1	4	1.6
合 計	2	13	19	35	36	52	94	251	100.0
構成比%	0.8	5.2	7.6	13.9	14.3	20.7	37.5	100.0	

2015年度

(単位:人)

病名 (ICD-10)	全 体							合計	占有率 (%)
	～ 19才	20～ 29才	30～ 39才	40～ 49才	50～ 59才	60～ 69才	70才 ～		
F00 アルツハイマー型認知症						2	45	47	20.2
F01 血管性認知症				2		2	6	10	4.3
F02 その他の疾患による認知症							4	4	1.7
F05 せん妄						1	1	2	0.9
F0 (上記以外の疾患)									
F10 アルコール使用による障害				1	1	2		4	1.7
F1 (上記以外の疾患)		1		1				2	0.9
F20 統合失調症	2	6	11	13	19	25	9	85	36.5
F2 (上記以外の疾患)					1	1	6	8	3.4
F30 躁病エピソード						1		1	0.4
F31 双極性感情障害	1	1	1	2	4	7	5	21	9.0
F32 うつ病エピソード			4	3	5	7	9	28	12.0
F33 反復性うつ病性障害					1	2		3	1.3
F3 (上記以外の疾患)							1	1	0.4
F40 恐怖性不安障害									
F41 他の不安障害		1	1			1	1	4	1.7
F42 強迫性障害							1	1	0.4
F43 重度ストレス反応及び 適応障害				1				1	0.4
F44 解離性(転換性)障害				1			1	2	0.9
F45 身体表現性障害									
F4 (上記以外の疾患)									
F50 摂食障害									
F51 非器質性睡眠障害									
F5 (上記以外の疾患)									
F6 成人のパーソナリティー及び 行動の障害		2						2	0.9
F7 精神遅滞		1		2	1			4	1.7
F84 広汎性発達障害									
F8 (上記以外の疾患)									
F90 多動性障害									
F9 (上記以外の疾患)									
G40 てんかん				2				2	0.9
その他						1		1	0.4
合 計	3	12	17	28	32	52	89	233	100.0
構成比%	1.3	5.2	7.3	12.0	13.7	22.3	38.2	100.0	

3-2 新規入院患者の病名別人数と構成割合の年次推移

	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	人数	割合 (%)								
F00 アルツハイマー型認知症	42	16.3	34	14.3	58	22.8	47	18.7	47	20.2
F01 血管性認知症	6	2.3	8	3.4	13	5.1	11	4.4	10	4.3
F02 その他の疾患による認知症	5	1.9	9	3.8	6	2.4	12	4.8	4	1.7
F05 せん妄	9	3.5	12	5.0	2	0.8	2	0.8	2	0.9
F0 (上記以外の疾患)	5	1.9	4	1.7	8	3.1				
F10 アルコール使用による障害	6	2.3	10	4.2	13	5.1	14	5.6	4	1.7
F1 (上記以外の疾患)	6	2.3	6	2.5			3	1.2	2	0.9
F20 統合失調症	101	39.1	85	35.7	79	31.1	88	35.1	85	36.5
F2 (上記以外の疾患)	3	1.2	3	1.3			4	1.6	8	3.4
F30 躁病エピソード	3	1.2							1	0.4
F31 双極性感情障害	24	9.3	26	10.9	11	4.3	18	7.2	21	9.0
F32 うつ病エピソード	16	6.2	11	4.6	4	1.6	17	6.8	28	12.0
F33 反復性うつ病性障害	10	3.9	2	0.8			2	0.8	3	1.3
F3 (上記以外の疾患)	2	0.8	2	0.8	28	11.0	2	0.8	1	0.4
F40 恐怖性不安障害										
F41 他の不安障害	4	1.6	5	2.1	2	0.8	7	2.8	4	1.7
F42 強迫性障害			1	0.4					1	0.4
F43 重度ストレス反応及び適応障害	1	0.4	3	1.3	1	0.4			1	0.4
F44 解離性(転換性)障害	3	1.2							2	0.9
F45 身体表現性障害	2	0.8	2	0.8			6	2.4		
F4 (上記以外の疾患)										
F50 摂食障害	1	0.4	1	0.4	2	0.8	3	1.2		
F51 非器質性睡眠障害										
F5 (上記以外の疾患)										
F6 成人のパーソナリティ及び行動の障害	3	1.2	1	0.4	2	0.8	6	2.4	2	0.9
F7 精神遅滞			4	1.7	8	3.1	2	0.8	4	1.7
F84 広汎性発達障害	5	1.9	1	0.4			1	0.4		
F8 (上記以外の疾患)	1	0.4								
F90 多動性障害										
F9 (上記以外の疾患)			1	0.4						
G40 てんかん			6	2.5	6	2.4	2	0.8	2	0.9
その他			1	0.4	11	4.3	4	1.6	1	0.4
合計	258	100.0	238	100.0	254	100.0	251	100.0	233	100.0

4 新規入院患者の年齢階層別人数及び割合の年次推移

年度 年齢階層	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	人数	割合 (%)								
～ 19才	2	0.8	1	0.4	2	0.8	2	0.8	3	1.3
20才～29才	21	8.1	9	3.8	26	10.2	13	5.2	12	5.2
30才～39才	21	8.1	26	10.9	22	8.7	19	7.6	17	7.3
40才～49才	37	14.3	33	13.9	39	15.4	35	13.9	28	12.0
50才～59才	47	18.2	34	14.3	28	11.0	36	14.3	32	13.7
60才～69才	49	19.0	54	22.7	41	16.1	52	20.7	52	22.3
70才～	81	31.4	81	34.0	96	37.8	94	37.5	89	38.2
合 計	258	100.0	238	100.0	254	100.0	251	100.0	233	100.0

5 入院患者の在院期間別人数及び割合（6月30日現在）

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
1ヶ月未満	18	17	27	30	16
(%)	17.6	15.5	23.5	27.3	15.4
1ヶ月～3ヶ月未満	18	21	19	18	19
(%)	17.6	19.1	16.5	16.4	18.3
3ヶ月～6ヶ月未満	14	13	6	14	18
(%)	13.7	11.8	5.2	12.7	17.3
6ヶ月～1年未満	9	17	15	12	17
(%)	8.8	15.5	13.0	10.9	16.3
1年～5年未満	21	19	26	18	23
(%)	20.6	17.3	22.6	16.4	22.1
5年～10年未満	9	13	12	9	6
(%)	8.8	11.8	10.4	8.2	5.8
10年～20年未満	7	4	4	3	1
(%)	6.9	3.6	3.5	2.7	1.0
20年以上	6	6	6	6	4
(%)	5.9	5.5	5.2	5.5	3.8
合 計	102	110	115	110	104
(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1年未満	59	68	67	74	70
(%)	57.8	61.8	58.3	67.3	67.3
1年以上	43	42	48	36	34
(%)	42.2	38.2	41.7	32.7	32.7

(再掲) 5年以上	22	23	22	18	11
(%)	21.6	20.9	19.1	16.4	10.6

6-1 退院患者の退院先別入院期間別人数及び割合

2011年度

区分	入院期間								計	構成比 (%)
	1月未満	1月～3月	3月～6月	6月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上			
単身生活	14	16	2	1	1		1	35	13.7	
家族と同居	41	53	29	13	3			139	54.5	
老人施設等	4	5	5	2	2	2	1	21	8.2	
転院	15	10	5	5	3	1	2	41	16.1	
共同住居	2	4	4	1	5			16	6.3	
死亡	1		1	1				3	1.2	
警察								0	0.0	
その他								0	0.0	
計	77	88	46	23	14	3	4	255	100.0	
(%)	30.2	34.5	18.0	9.0	5.5	1.2	1.6	100.0		

2012年度

区分	入院期間								計	構成比 (%)
	1月未満	1月～3月	3月～6月	6月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上			
単身生活			1					1	0.4	
家族と同居	42	69	20	13	5			149	60.8	
老人施設等	6	9	5	2	1			23	9.4	
転院	19	13	5	3	6		2	48	19.6	
共同住居	1	7	1	4			1	14	5.7	
死亡	3	2	3	1	1			10	4.1	
警察								0	0.0	
その他								0	0.0	
計	71	100	35	23	13	0	3	245	100.0	
(%)	29.0	40.8	14.3	9.4	5.3	0.0	1.2	100.0		

2013年度

区分	入院期間								計	構成比 (%)
	1月未満	1月～3月	3月～6月	6月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上			
単身生活								0	0.0	
家族と同居	25	73	29	18	5			150	58.6	
老人施設等	4	24	11	8	2	2		51	19.9	
転院	12	11	5	2	4		4	38	14.8	
共同住居		4	3	2	3	1		13	5.1	
死亡	1	1		1	1			4	1.6	
警察								0	0.0	
その他								0	0.0	
計	42	113	48	31	15	3	4	256	100.0	
(%)	16.4	44.1	18.8	12.1	5.9	1.2	1.6	100.0		

2014年度

区分	入院期間							計	構成比 (%)
	1月未満	1月～3月	3月～6月	6月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上		
単身生活	5	1						6	2.4
家族と同居	28	56	29	5	4			122	49.8
老人施設等	4	15	2	2	1			24	9.8
転院	17	13	9	7	4		4	54	22.0
共同住居	4	10	10	7	3		2	36	14.7
死亡				1			2	3	1.2
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	58	95	50	22	12	0	8	245	100.0
(%)	23.7	38.8	20.4	9.0	4.9	0.0	3.3	100.0	

2015年度

区分	入院期間							計	構成比 (%)
	1月未満	1月～3月	3月～6月	6月～1年	1年～3年	3年～5年	5年以上		
単身生活		2	1					3	1.1
家族と同居	23	61	45	12	1			142	54.2
老人施設等	1	13	10	5	2	2		33	12.6
転院	9	6	7	3	4	2	2	33	12.6
共同住居	4	21	8	6	8	2		49	18.7
死亡	1	1						2	0.8
警察								0	0.0
その他								0	0.0
計	38	104	71	26	15	6	2	262	100.0
(%)	14.5	39.7	27.1	9.9	5.7	2.3	0.8	100.0	

6-2 退院患者の退院先別人数と構成割合の年次推移

区分	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	人数	割合 (%)								
単身生活	35	13.7	1	0.4	0	0.0	6	2.4	3	1.1
家族と同居	139	54.5	149	60.8	150	58.6	122	49.8	142	54.2
老人施設等	21	8.2	23	9.4	51	19.9	24	9.8	33	12.6
転院	41	16.1	48	19.6	38	14.8	54	22.0	33	12.6
共同住居	16	6.3	14	5.7	13	5.1	36	14.7	49	18.7
死亡	3	1.2	10	4.1	4	1.6	3	1.2	2	0.8
警察	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
計	255	100.0	245	100.0	256	100.0	245	100.0	262	100.0

7 入院患者の居住地域別人数及び割合

		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
		患者数	(%)								
北網圏	網走市	663	44.3	663	43.2	690	46.3	645	44.9	638	47.4
	北見市	93	6.2	95	6.2	101	6.8	165	11.5	118	8.8
	(旧)北見市	57	3.8	65	4.2	69	4.6	100	7.0	49	3.6
	端野町	1	0.1								
	留辺蘂町	21	1.4	23	1.5	24	1.6	24	1.7	24	1.8
	常呂町	14	0.9	7	0.5	8	0.5	41	2.9	45	3.3
	大空町	61	4.1	82	5.3	102	6.8	85	5.9	47	3.5
	東藻琴村	25	1.7	27	1.8	9	0.6	18	1.3	6	0.4
	女満別町	36	2.4	55	3.6	93	6.2	67	4.7	41	3.0
	美幌町	141	9.4	158	10.3	117	7.8	83	5.8	102	7.6
	津別町	15	1.0	10	0.7	10	0.7	2	0.1	13	1.0
	斜里町	198	13.2	185	12.1	149	10.0	143	9.9	96	7.1
	清里町	84	5.6	95	6.2	87	5.8	79	5.5	79	5.9
	小清水町	26	1.7	33	2.2	41	2.7	40	2.8	67	5.0
	訓子府町			5	0.3	7	0.5	4	0.3	2	0.1
	置戸町										
遠紋圏	紋別市	42	2.8	26	1.7	24	1.6	22	1.5	52	3.9
	佐呂間町	5	0.3	11	0.7	9	0.6	17	1.2	16	1.2
	遠軽町	22	1.5	34	2.2	44	3.0	47	3.3	42	3.1
	生田原町							12	0.8	12	0.9
	(旧)遠軽町	19	1.3	34	2.2	44	3.0	35	2.4	27	2.0
	丸瀬布町	3	0.2							3	0.2
	白滝村										
	湧別町	26	1.7	20	1.3	21	1.4	34	2.4	27	2.0
	上湧別町	4	0.3					6	0.4	2	0.1
	(旧)湧別町	22	1.5	20	1.3	21	1.4	28	1.9	25	1.9
	滝上町	27	1.8	25	1.6	13	0.9	15	1.0	15	1.1
興部町	4	0.3	12	0.8	7	0.5	1	0.1	3	0.2	
西興部町					3	0.2					
雄武町	17	1.1	18	1.2	14	0.9	10	0.7			
その他	他道内	72	4.8	52	3.4	45	3.0	46	3.2	23	1.7
	道外	1	0.1	9	0.6	7	0.5			7	0.5
	その他										
合計		1,497	100.0	1,533	100.0	1,491	100.0	1,438	100.0	1,347	100.0

8 入院患者の経路別人数及び割合

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
本人自らの希望	56	55	72	60	68
(%)	21.7	23.0	22.8	21.3	20.2
家族・同僚等が同伴	125	99	114	116	110
(%)	48.4	41.4	36.1	41.1	32.7
保健所・福祉事務所の紹介	1	1	1	0	1
(%)	0.4	0.4	0.3	0.0	0.3
他の精神科病院等の紹介	3	3	3	3	2
(%)	1.2	1.3	0.9	1.1	0.6
精神科以外の病院等の紹介	47	40	61	31	51
(%)	18.2	16.7	19.3	11.0	15.2
警察・消防署等の紹介	8	11	26	12	20
(%)	3.1	4.6	8.2	4.3	6.0
その他	18	30	39	60	84
(%)	7.0	12.6	12.3	21.3	25.0
計	258	239	316	282	336
(%)	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※ 経路別人数は複数計上あり

2013年度

入院経路	同伴者等 本人	家族		施設職員	保健所 警察等	計
		施設職員	保健所警察等			
自宅	72	114	7	4	12	209
一般病院	12	37	3	8	1	61
精神科病院	1	1			1	3
施設	5	6	2	11	2	26
グループホーム	1			3		4
その他（旅行中・警察等）	3	2	2		6	13
計	94	160	5	26	22	316

2014年度

入院経路	同伴者等 本人	家族		施設職員	保健所 警察等	計
		施設職員	保健所警察等			
自宅	60	116	8	7		195
一般病院	11	8	3	8		31
精神科病院	1	1		1		3
施設	4	10	8	9		31
グループホーム	5	4	5	2		16
その他（旅行中・警察等）	1	1	1		3	6
計	82	140	20	27	3	282

2015年度

入院経路	同伴者等 本人	家族		施設職員	保健所 警察等	計
		施設職員	保健所警察等			
自宅	68	110	3	7	6	202
一般病院	15	27	4	3	1	51
精神科病院		1	1			2
施設	10	6	2	22	1	44
グループホーム	7	5	1	8	1	22
その他（旅行中・警察等）	5	2	1	1	5	15
計	105	151	7	41	12	336

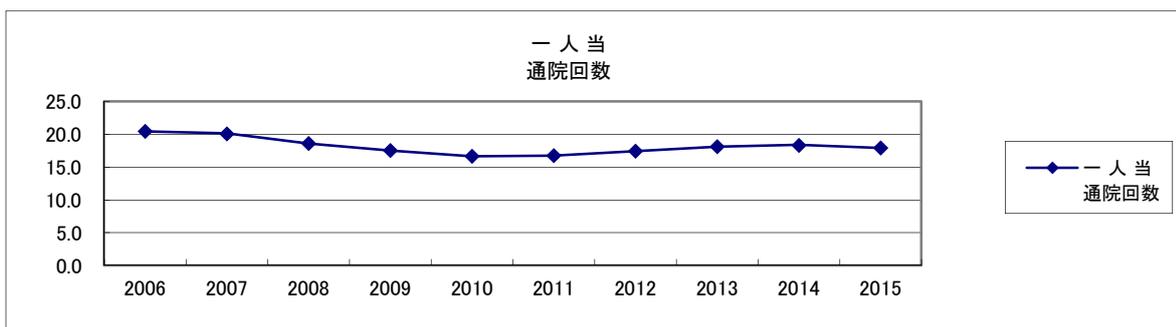
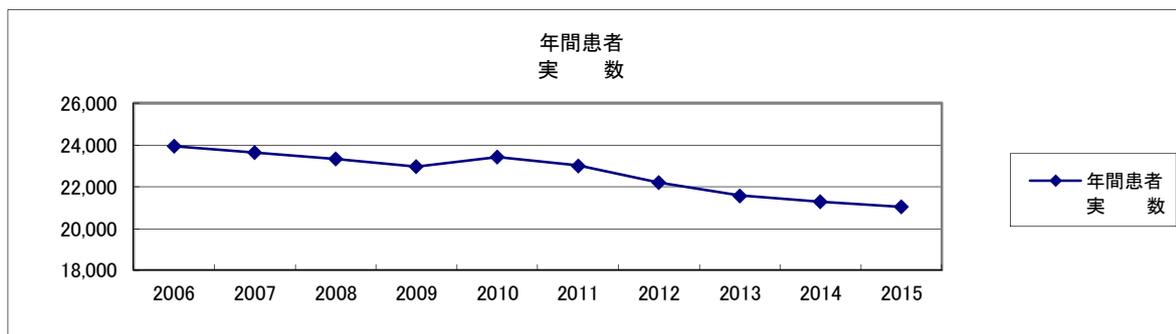
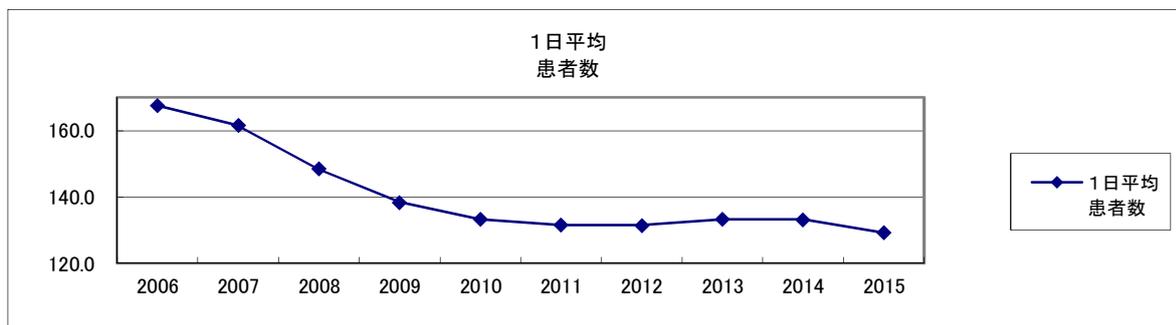
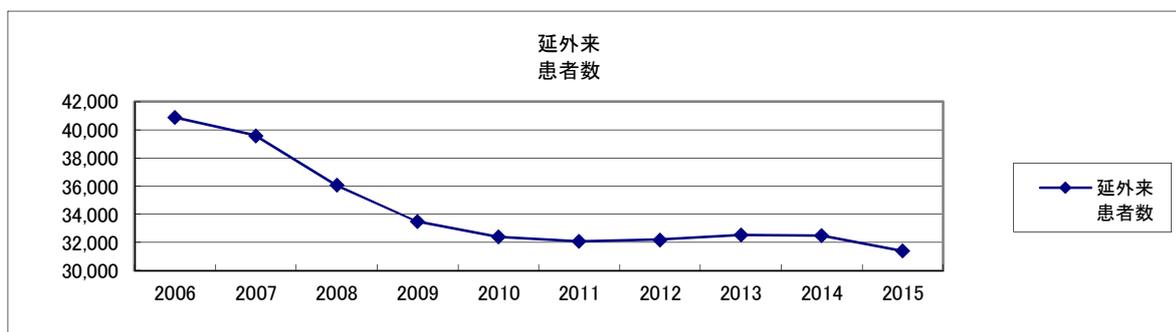
9-1 外来患者数の推移

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
延べ外来患者数	32,073	32,188	32,515	32,480	31,392
年間実患者数	23,001	22,189	21,569	21,267	21,024
新規外来患者数	758	730	670	870	819
1日平均患者数	131.4	131.4	133.3	133.1	129.2
休日診療患者数	21	12	11	25	12
時間外診療患者数	1	11	5	5	6
深夜診療患者数	9	8	5	7	6

9-2 外来患者数の推移（2006年度～2015年度）

（単位：人）

区分	延外来患者数	新外来患者数	1日平均患者数	年間患者実数	一人当通院回数
2006	40,896	989	167.6	23,952	20.5
2007	39,584	1,008	161.6	23,632	20.1
2008	36,065	955	148.4	23,324	18.6
2009	33,488	834	138.4	22,950	17.5
2010	32,390	843	133.3	23,413	16.6
2011	32,073	758	131.4	23,001	16.7
2012	32,188	730	131.4	22,189	17.4
2013	32,515	670	133.3	21,569	18.1
2014	32,480	870	133.1	21,267	18.3
2015	31,392	819	129.2	21,024	17.9



10 初診外来患者の病名別分類

病名 (ICD-10)	2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
	人数	(%)								
F0	98	12.9	103	14.1	118	17.6	166	19.1	141	17.2
F1	13	1.7	13	1.8	17	2.5	10	1.1	11	1.3
F2	38	5.0	50	6.8	47	7.0	39	4.5	46	5.6
F3	128	16.9	139	19.0	140	20.9	172	19.8	209	25.5
F4	278	36.7	275	37.7	256	38.2	251	28.9	206	25.2
F5	49	6.5	33	4.5	20	3.0	74	8.5	55	6.7
F6	6	0.8	4	0.5	1	0.1	1	0.1	4	0.5
F7	43	5.7	50	6.8	31	4.6	49	5.6	49	6.0
F8	5	0.7	7	1.0	7	1.0	7	0.8	9	1.1
F9	1	0.1	0	0.0	1	0.1	6	0.7	5	0.6
G	14	1.8	12	1.6	5	0.7	6	0.7	2	0.2
その他	85	11.2	44	6.0	27	4.0	89	10.2	82	10.0
合計	758	100.0	730	100.0	670	100.0	870	100.0	819	100.0

F0 : 症状性を含む器質性精神障害

F1 : 精神作用物質使用による精神及び行動の障害

F2 : 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害

F3 : 気分（感情）障害

F4 : 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害

F5 : 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群

F6 : 成人の人格及び行動の障害

F7 : 知的障害（精神遅滞）

F8 : 心理的発達の障害

F9 : 小児（児童）期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害

G : 神経系の疾患

その他 : 精神によらない内科的、外科的疾患

1 1 外来患者の居住地域別人数及び割合

		2011年度		2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		
		患者数	(%)									
北網圏	網走市	11,115	48.5	10,852	48.9	10,776	49.9	10,978	51.6	10,943	52.1	
	北見市	北見市	1,521	6.6	1,377	6.2	1,258	5.8	1,285	6.0	1,228	5.8
		(旧)北見市	1,092	4.8	985	4.4	891	4.1	918	4.3	866	4.1
		端野町	36	0.2	32	0.1	31	0.1	37	0.2	38	0.2
		留辺蘂町	5	0.0	3	0.0					4	0.0
		常呂町	388	1.7	357	1.6	336	1.6	330	1.6	320	1.5
		大空町	1,540	6.7	1,436	6.5	1,405	6.5	1,326	6.2	1,326	6.3
	東藻琴村	東藻琴村	462	2.0	428	1.9	453	2.1	405	1.9	375	1.8
		女満別町	1,078	4.7	1,008	4.5	952	4.4	921	4.3	951	4.5
	美幌町	1,645	7.2	1,659	7.5	1,564	7.2	1,425	6.7	1,358	6.5	
	津別町	319	1.4	339	1.5	332	1.5	304	1.4	289	1.4	
	斜里町	3,440	15.0	3,377	15.2	3,310	15.3	3,131	14.7	3,218	15.3	
	清里町	1,100	4.8	986	4.4	871	4.0	832	3.9	794	3.8	
	小清水町	1,111	4.8	1,092	4.9	998	4.6	987	4.6	941	4.5	
	訓子府町	50	0.2	47	0.2	57	0.3	55	0.3	56	0.3	
	置戸町	10	0.0	9	0.0							
遠紋圏	紋別市	129	0.6	124	0.6	125	0.6	115	0.5	97	0.5	
	佐呂間町	233	1.0	228	1.0	192	0.9	143	0.7	104	0.5	
	遠軽町	遠軽町	94	0.4	76	0.3	79	0.4	73	0.3	93	0.4
		生田原町										
		(旧)遠軽町	84	0.4	76	0.3	67	0.3	61	0.3	81	0.4
		丸瀬布町	10	0.0			12	0.1	12	0.1	12	0.1
	白滝村											
	湧別町	湧別町	141	0.6	125	0.6	129	0.6	110	0.5	97	0.5
		上湧別町	36	0.2	35	0.2	34	0.2	29	0.1	19	0.1
		(旧)湧別町	105	0.5	90	0.4	95	0.4	81	0.4	78	0.4
	滝上町	23	0.1	14	0.1	22	0.1	23	0.1	27	0.1	
	興部町	53	0.2	46	0.2	44	0.2	45	0.2	52	0.2	
	西興部町											
	雄武町			3	0.0	8	0.0	12	0.1	8	0.0	
その他	他道内	287	1.3	270	1.2	293	1.4	298	1.4	250	1.2	
	道外	39	0.2	36	0.2	18	0.1	27	0.1	20	0.1	
	その他	62	0.3	93	0.4	94	0.4	98	0.5	123	0.6	
合 計		22,912	100.0	22,189	100.0	21,575	100.0	21,267	100.0	21,024	100.0	

1 2 診療時間以外の外来診療件数内訳

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	
初診	時間外	2	3	12	5	6	
	休日	3	1	5	13	3	
	深夜	1	1	6	2	1	
	計	6	5	23	20	10	
再診	再診	時間外	0	2	0	0	0
		休日	12	10	11	12	7
		深夜	2	6	3	3	4
		計	14	18	14	15	11
	電話再診	時間外	0	9	0	0	0
		休日	6	3	4	0	2
		深夜	7	1	0	2	1
		計	13	13	4	2	3
	計	時間外	0	11	0	0	0
		休日	18	13	15	12	9
		深夜	9	7	3	5	5
		計	27	31	18	17	14
合計	時間外	2	14	12	5	6	
	休日	21	14	20	25	12	
	深夜	10	8	9	7	6	
	計	33	36	41	37	24	

1 3 - 1 精神科救急医療システム実績

年 度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
(システム実施日数)	(183)	(183)	(183)	(183)	(176)
システム取扱件数	42	29	15	13	22
電話相談	22	10	0	0	9
外来	12	13	5	7	5
入院	8	6	10	6	8

1 3 - 2 救急車による患者搬入件数の年次推移

年 度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
総 数	21	25	37	47	36
時 間 外	10	13	21	29	24

第4 経営概況

1 決算状況

(単位：千円、%)

款 項 目	2013年度	2014年度	2015年度	13年度対比	14年度対比
	A	B	C	C/A	C/B
病院事業収益	821,736	857,130	807,774	98.3	94.2
医療収益	815,575	799,444	775,549	95.0	97.0
うち入院収益	568,569	546,173	526,321	92.5	96.3
うち外来収益	239,429	243,937	237,701	99.2	97.4
うちその他医療収益	7,577	9,334	11,527	152.1	123.4
医療外収益	5,550	55,177	29,406	529.8	53.2
特別利益	611	2,509	2,819	461.3	112.3
病院事業費用	1,214,301	1,542,097	1,306,667	107.6	84.7
医療費用	1,213,348	1,456,973	1,275,784	105.1	87.5
給与費用	836,583	1,015,976	873,025	104.3	85.9
うち退職給与金	86,600	210,973	140,894	162.6	66.7
材料費用	82,559	108,691	96,088	116.3	88.4
うち医薬材料費	82,559	84,104	95,364	115.5	113.3
経費	262,771	278,977	280,364	106.6	100.4
うち旅費	2,831	2,435	2,266	80.0	93.0
うち需用費	45,660	45,030	41,722	91.3	92.6
うち修繕費	7,878	7,307	11,671	148.1	159.7
うち委託料	175,262	186,264	185,714	105.9	99.7
うち使用料賃借料	23,251	22,087	18,709	80.4	84.7
うち役務費	5,010	6,034	6,413	128.0	106.2
減価償却費	26,721	24,820	22,365	83.6	90.1
資産減耗費	1,266	25,517	708	55.9	2.7
研究研修費	3,448	2,992	3,234	93.7	108.0
医療外費用	54	28,620	28,205	52,231.4	98.5
特別損失	899	56,504	2,678	297.8	4.7
損 益	-392,565	-684,967	-498,893	127.0	72.8
外来収益/医療収益(%)	29.3	30.5	30.6	104.4	100.3
医療費用/医療収益(%)	148.7	182.2	164.5	110.6	90.2
給与費用 / 医療収益(%)	102.5	127.0	112.5	109.7	88.5
医療収益 - 医療費用	-397,773	-657,529	-500,235	125.7	76.0

2 経営分析調

項目 \ 区分	算出基礎	2013年度	2014年度	2015年度
病床利用率 (%)	$\frac{\text{年延入院患者数}}{\text{年延許可病床数}} \times 100$	74.2	70.0	64.8
入院外来患者比率 (%)	$\frac{\text{年延外来患者数}}{\text{年延入院患者数}} \times 100$	83.7	87.7	91.6
患者1人1日当たり入院収益 (円)	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年延入院患者数}}$	14,653	14,740	15,352
患者1人1日当たり外来収益 (円)	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年延外来患者数}}$	7,363	7,510	7,572
患者1人1日当たり収益 (円)	$\frac{\text{入院・外来収益}}{\text{年延入院外来患者数}}$	11,329	11,363	11,633
投薬使用効率 (%)	$\frac{\text{投薬収入}}{\text{投薬薬品費}} \times 100$	126.8	127.8	127.8
注射薬使用効率 (%)	$\frac{\text{注射収入}}{\text{注射薬品費}} \times 100$	114.0	115.8	114.7
職員給与費率 (%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	102.5	127.1	112.6
材料費率 (%)	$\frac{\text{材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	10.1	13.6	12.4
経常収支比率 (%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	61.9	55.6	61.8
医業収支比率 (%)	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	67.2	54.9	60.8

3 診療行為別件数

区 分		年 度				
		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
初 診		805	781	727	892	879
投 薬	入 院	165,031	169,972	166,509	173,073	176,510
	外 来	4,896	4,309	4,240	3,647	4,448
	合 計	169,927	174,281	170,749	176,720	180,958
画 像 診 断	入 院	9,795	8,259	9,921	11,267	12,307
	外 来	4,303	3,941	5,265	8,759	7,538
	合 計	14,098	12,200	15,186	20,026	19,845
検 査	入 院	59,529	52,129	52,510	55,770	53,374
	外 来	30,666	21,811	43,725	47,565	39,935
	合 計	90,195	73,940	96,235	103,335	93,309
特別食（単位：食）		17,739	16,234	21,640	16,997	19,681
訪 問 看 護		1,607	1,927	2,172	2,151	2,187
往 診		0	0	0	0	0
作 業 療 法		4,626	5,644	4,878	4,412	4,996
薬 剤 管 理 指 導		753	718	1	0	0
デ イ ケ ア		6,528	7,800	8,726	9,045	8,218

4 病床100床当たり職員数

年度 職種等	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度
病 床 数	200	146	146	146	146
医 師	2.5	3.4	3.4	3.4	3.4
看 護 部 門	32.0	43.8	45.9	43.8	43.8
薬 剤 部 門	1.4	1.9	1.2	1.2	1.2
栄 養 部 門	0.5	0.7	0.7	0.7	0.7
画 像 診 断 部 門	1.0	1.4	1.4	1.4	1.4
臨 床 検 査 部 門	1.0	0.7	0.7	1.4	1.4
作 業 療 法 部 門	0.9	1.2	1.2	1.2	0.7
デ イ ケ ア 部 門	2.0	2.7	3.4	3.4	2.7
認 知 症 疾 患 医 療 セ ン タ ー 部 門	—	—	—	0.7	2.1
指 導 部 門	—	—	—	—	—
そ の 他	—	—	—	—	—
事 務 部 門	4.5	6.2	6.2	6.2	5.5
合 計	45.8	62.0	64.1	63.4	62.9

1 職員数には、委嘱医、非常勤職員、臨時職員を含み、委嘱医、非常勤職員は常勤換算し算出

2 看護部門には、看護助手を含む

3 職員数＝年度末職員数／年度末病床数×100

5 医薬材料使用効率調

(単位：円、%)

年度		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
区分						
投 薬	費用 a	35,786,417	39,307,830	35,360,078	33,209,451	32,967,106
	収益 b	45,215,287	47,183,519	44,847,777	42,447,149	42,139,331
	率 b/a	126.3	120.0	126.8	127.8	127.8
注 射	費用 a	30,605,562	30,604,337	29,852,706	31,621,292	43,051,789
	収益 b	34,968,759	35,477,727	34,034,498	36,625,999	49,398,931
	率 b/a	114.3	115.9	114.0	115.8	114.7
薬 品 計	費用 a	66,391,979	69,912,167	65,212,784	64,830,743	76,018,895
	収益 b	80,184,046	82,661,246	78,882,275	79,073,148	91,538,262
	率 b/a	120.8	118.2	121.0	122.0	120.4
そ の 他 医 薬 材 料	費用 a	12,196,857	11,225,210	13,305,532	13,175,840	12,256,154
	収益 b	198,106,404	203,130,902	215,949,545	219,094,755	204,282,855
	率 b/a	1,624.2	1,809.6	1,623.0	1,662.9	1,666.8
合 計	費用 a	78,588,836	81,137,377	78,518,316	78,006,583	88,275,049
	収益 b	278,290,450	285,792,148	294,831,820	298,167,903	295,821,117
	率 b/a	354.1	352.2	375.5	382.2	335.1

※ 「その他医薬材料」とは、検査、X線、処置、手術、精神科専門療法に係るものの合計である。

6 給食収益に対する材料費調

(単位：円、%)

年度		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
区分						
	(うち用具費分)	(27,861)	(159,936)	(153,593)	(445,875)	(203,835)
費 用	A	26,007,767	30,899,207	31,448,254	31,269,915	29,149,069
収 益	B	74,218,274	76,062,991	74,476,000	70,167,562	65,556,136
	率 A/B	35.0	40.6	42.2	44.6	44.5
	(うち用具費分)	(1)	(4)	(4)	(12)	(6)
1人1日当たり費用		668	764	811	844	850

第5 地域支援活動

1 診療支援

J A北海道厚生連網走厚生病院には、精神科の専門医が配置されていないが、入院患者の中には、主疾病とは別に精神的な治療を必要とする患者がおり、臨時的な専門医による診療が必要な状況から、当院が支援を行っている。

網走市内で精神科専門医を要しているのは、当院のみであり、公的医療機関として、地域の医療機関への補完的応援を行い、地域の医療確保に努める必要があることから、当該病院に対し、診療支援を行っている。

2 地域の保健、予防活動

地域の保健、予防活動の普及、促進等のため、関係機関への協力、支援を行っている。

機 関 名	内 容
北海道森林管理局	心の健康づくり相談員
北海道警察本部	鉄砲刀剣類所持等取締法に基づく指定医
北海道保健福祉部	精神科病院実地審査委員
	精神科救急医療体制連絡調整委員
北海道教育委員会	心の健康相談員
北海道オホーツク総合振興局	精神保健医
	生活保護法による委嘱医
	精神保健相談事業
	思春期相談事業
北海道網走高等看護学院	講師
北海道網走養護学校	学校医
道立心身障害者総合相談所	巡回相談相談医
網走市	福祉事務所嘱託医
	老人ホーム入所判定会議委員
	特別障害手当等障害程度認定審査嘱託医
	教育委員会就学指導審査会委員
網走市外3町障害程度区分認定審査会	委員
網走市外3町介護認定審査会	委員
美幌地域3町障害程度区分認定等審査会	委員
網走刑務所	非常勤医師
J A北海道厚生連網走厚生病院	委嘱医師
網走地方精神保健協会	会長ほか役員、事務局員

3 講演

地方公共団体や各種団体からの依頼を受け、地域の保健活動の普及、促進等のため、講演を行っている。

年月日	講演者	演 題	主 催
H27. 7. 9	佐々木信一	介護支援専門員更新研修	一般社団法人北海道総合研究調査会
H27. 6. 25	佐々木信一	生活保護職員定例研修会	オホーツク総合振興局
H27.10.24	佐々木信一	ゲートキーパー研修	美幌町
H27.11. 5	草野 章子	認知症ケア研修	北見病院

4 自助グループへの支援

A・A（アルコールの自助グループ）活動の支援

アルコール依存症の治療は、薬物や精神療法には限界があり、仲間同士の体験や知恵から、断酒を自らが選び取る自助グループの存在は欠くことができないものであり、病院の近くに参加できるグループの存在は大きい。

現在、市内では、網走グループが、毎週月曜日の19時から20時まで、当院生活療法室を使用して、ミーティング活動を行っている。

グループへの支援は、外来看護師が窓口を担当し、ミーティング開催に向けて、入院、通院中の関係患者に通知し、参加を促している。

また、保健所主催のAA家族学習会への支援を行っている。

5 グループホームと地域活動支援センターの支援

市内にある共同住居（グループホーム）と地域共同作業所に対し、運営委員会やミーティングへの参加、訪問看護、相談及び指導 員との連絡・調整等の支援を行っている。

6 網走保健所、市町村等との連携

(1) サポート会議

精神障がい者が円滑な地域生活ができるよう、関係者が情報交換を行い、連携の強化を図るため、月1回、地域の保健福祉担当者とケース検討を行っている。

年度別のケース検討件数は、次表のとおりである。

年度	月												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
2011年度	14	16	14	14	11	11	13	16	12	14	15	22	172
2012年度	19	15	16	13	17	14	16	14	14	13	27	21	199
2013年度	14	16	18	18	19	18	16	20	16	12	21	22	210
2014年度	15	17	12	18	20	14	23	15	15	6	12	17	184
2015年度	17	11	20	18	22	16	16	14	15	10	14	7	180

(2) ヘルパー会議

市役所保健福祉課・保健センター職員、ホームヘルパーと精神障がい者や認知症老人の在宅支援などのケース検討等を隔月に1回、計167件実施している。
また、必要に応じ訪問看護ステーションなどと連携している。

(3) 心の健康相談

地域、職場などの各ライフステージにわたる精神的不健康、不適応状態にある者の相談援助を行い、健康状態の回復を目指したり、精神疾患の早期発見、早期治療、更には、精神障がいを有する者やその家族が抱えている問題に相談援助し、家族の問題の軽減を図る目的で網走保健所が実施している事業であり、月1回、当院医師が協力している。

(4) 移動精神保健相談

町内に精神科の医療機関がない住民に対し、身近な地域で容易に相談が受けられる機会を提供することを目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(5) 思春期保健相談事業

中高校生等思春期における子どもとその親を対象に医師、保健師により思春期に関する相談を目的に保健所が実施している事業であり、当院医師が協力している。

(6) 通院患者の主治医相談

保健所保健師が、訪問指導などのために主治医との相談を求めてきた場合、随時、応じている。
対応困難なケースについては、事例検討会などを開催し、関係者を含めた主治医との連携を図っている。
その他退院予定者が対象となる場合もある。

(7) 福祉サービスとの連携

生活保護受給者等について、市及び総合振興局の生活保護担当者による主治医相談が、随時、行われている。
当院の場合、疾病による生活障害のため、生活保護を受給している障がい者が比較的多く、病状が悪化したことにより、緊急に相談を受けることもある。

(8) 介護保険制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

介護保険主治医意見書取扱件数

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
件数	330	273	256	292	297

(9) 障害者自立支援制度への協力

市町村からの依頼により、主治医意見書を記載している。

障害者自立支援主治医意見書取扱件数

	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
件数	82	86	69	102	92

第6 研修、教育・実習

1 院内研修開催状況

開催年月日	研修会等の名称・内容	参加数	備考(講師等)
2015. 5. 21	拘束に関する研修	13名	行動制限最小化委員会
2015. 6. 10	医療安全研修 (事故集計結果等)	18名	医療安全管理委員会
2015. 6. 12	防災教育	17名	防火管理者 (庶務課長)
2015. 8. 10	感染症対策学習会	16名	院内感染対策チーム
2015. 9. 25	N S T研修	25名	N S T
2015. 10. 14	救急研修 (一次救命処置)	20名	厚生病院 谷口医師ほか
2015. 11. 9	感染対策研修会	18名	院内感染対策チーム
2015. 12. 19	医療安全研修 (C V P P P)	24名	医療安全管理委員会
2015. 12. 11	防災教育	18名	防火管理者 (庶務課長)
2016. 2. 16	接遇研修	17名	患者サービス向上委員会
2016. 3. 14	行動制限研修会	18名	行動制限最小化委員会
2016. 3. 17	公務員倫理研修・情報セキュリティ	82名	事務長
2016. 3. 17	特定事業主行動計画・交通安全研修	82名	庶務課長

2 院外研修会等参加状況

年 月 日	研修会等の名称	場 所	参 加 者
2015. 5. 18～ 5. 23	医療安全管理者講習会	札幌市	西森幸子
6. 5～ 6. 6	日本精神神経学会学術総会及び指導医講習会	大阪市	中村一朗
6. 15～ 6. 19	アルコール依存症臨床医等研修	横須賀市	岩永智美
7. 11～	道立病院医事担当職員等研修会	札幌市	笠井寛和
7. 14～ 7. 15	現場に活かせるリスクマネジメント研修会	札幌市	長谷川真琴
7. 17～	看護倫理研修会	旭川市	森本早百合
7. 18～	アルコール依存症の研修会	帯広市	小林節也
7. 25～	精神科認定看護師教育課程	札幌市	草野章子
7. 30～	医療事故調査制度に向けた研修会	札幌市	垣本恵美子
8. 7	地域精神医療フォーラム	東京都	中村一朗
8. 22	認知症看護研修会	札幌市	草野章子
9. 8～ 9. 9	精神保健指定医研修会	東京都	幡 賢
9. 10	認定看護管理者制度ファーストレベル教育課程	札幌市	垣本恵美子
9. 29～10. 2	C V P P P院内トレーナー養成研修	音更町	高橋さとみ外2名
10. 16～10. 17	道立病院副総看護師長・副看護部長研修	札幌市	菅原弘光
10. 29～10. 30	東北精神科看護学術集会	盛岡市	高田由美
10. 29～10. 31	精神保健指定医研修会	東京都	荒井勇輝
10. 23～	道立病院栄養士連絡会議	札幌市	石川千寿子
11. 10～11. 11	道立病院看護職員リーダーシップ研修会	札幌市	橘井陽子外1名
11. 12～11. 13	組織で行う感染管理研修会	札幌市	鴨部しのぶ
11. 12～	道東地域医療観察制度地域連絡協議会	釧路市	笠井寛和
11. 30～12. 2	災害支援ナース養成研修会	札幌市	桜井尚子
12. 3～12. 4	道立病院看護師長研修	札幌市	本田修子
2016 1. 15～ 3. 11	保健師助産師看護師実習指導者講習会	札幌市	前田年枝
2. 5～	診療報酬改定に係る伝達説明会	札幌市	赤木 かおり
2. 28～	総合臨床実習及び評価臨床教育者会議	恵庭市	山田亜人
3. 5～	臨床実習指導者会議	札幌市	山田亜人
3. 19～	社会保険診療報酬改定説明会	札幌市	菅原弘光
3. 25～	社会保険診療報酬改定説明会	札幌市	中川義浩
3. 26～	診療報酬改定に伴う研修会	札幌市	石川千寿子

3 教育、実習の受入、研究

(1) 教育

学 校 名	講 義 内 容	職 種	氏 名
道立網走高等看護学院	医療論	医 師	佐々木 信 一
	精神看護学援助論Ⅰ	医 師	中 村 一 朗
	精神看護学援助論Ⅱ	看 護 師	竹 田 枝美子
		看 護 師	河 野 宏 子
	精神看護学概論	看 護 師	玉 垣 リカ子
災害看護と国際協力	看 護 師	菊 田 美 雪	

(2) 実 習

職 種	学 校 名 等	実 習 期 間	人 員
作業療法	札幌医科大学	2015. 4. 13～ 5. 22	延 26
作業療法	北海道文教大学	2015. 4. 6～ 5. 29	延 36
看 護	道立網走高等看護学院	2015. 6. 9～ 6. 30 2015. 7. 1～ 7. 14 2015. 8. 3～ 8. 31 2015. 9. 1～ 9. 18 2015. 10. 19～10. 30 2015. 11. 2～11. 30 2015. 12. 1～12. 17	延345
看 護	道立紋別高等看護学院	2015. 5. 18～ 7. 31	延105
看 護	日本赤十字北海道看護大学	2015. 5. 12～ 7. 14	延 45
看 護	学校法人 西野学園	2015. 11. 9～11. 27	延 64
看 護	一般社団法人 日本精神看護協会	2015. 11. 30～12. 19	延 15

(3) 研 究

所属	院 外 発 表 テ ー マ	主 催	発 表 者
H27年度 看護	双極性感情障害患者の退院支援 ー自己効力感尺度（SECL）を用い下位尺度に焦点 を当てたアプローチを試みてー	日本精神看護 学会学術集会	高田 由美

第7 医療事故等の状況

1 医療事故等の公表基準

道では、近年の公立病院における医療事故に関する情報公開が急速に進展している状況を踏まえ、道立病院においても、病院運営の透明性を高め、さらに医療の安全管理体制の向上を図ることが必要との判断から、医療事故の公表に関する取扱いを定め、2006（平成18）年度発生した医療事故から適用することとした。

「道立病院における医療事故等の公表基準」の概要は、次のとおりである。

道立病院における医療事故等公表基準(概要)

1 目的

道立病院で発生した医療事故等を公表することにより、病院運営の透明性を高め、道民の医療に対する信頼を深めるとともに、医療における安全管理体制の向上を図ることを目的として、医療事故等の公表を行う。

2 医療事故等のレベル基準

レベ ル	障害の 継続性	障害の 程 度	内 容	
イン シ デ ン ト	レベル0	—	なし	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、 実施される前に気づいた事例
	レベル1	なし	—	患者への実害がなかった事例 何らかの影響を与えた可能性はあったが、処置や治 療を要しなかった事例
医 療 事 故	レベル2a	一過性	軽 度	確認のための検査の必要が生じた事例 簡単な処置や治療を要した事例(湿布、鎮痛剤の投 与など)
	レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例（皮膚の縫合など）
	レベル3	一過性	高 度	濃厚な処置や治療を要した事例(人工呼吸器の装着、 入院日数の延長、外来患者の入院など)
	レベル4	永続的	—	永続的な障害や後遺症が残った事例
	レベル5	死 亡	—	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)

3 公表基準

各レベルに対応するレベル基準は、次のとおりである。

区 分	レベル	過誤あり	過誤なし	
インシ デント	レベル0	一括公表（個々の事例ごとに公表しない） ※1	※1	
	レベル1			
医 療 事 故	レベル2a			
	レベル2b			概 要 公 表 (事例ごとに概要を公表する 医療機関名の公表はしない)
	レベル3			
	レベル4	原則個別公表 ※2		
	レベル5			

※1 過誤なしについては、一括公表とするが、社会的意義が大きいと考えられるものについては、医療安全対策の観点から概要を公表する。

※2 個別公表については、患者及び家族の同意を得たうえで公表する。
なお、自殺については、患者家族に対する配慮から個別公表は行わない。

4 公表の方法

道立病院室のホームページで、次により公表する。

公表に際しては、北海道個人情報保護条例に基づき、十分配慮して行う。

(1) 個別公表(随時)

事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

なお、個別公表に当たっては、患者さん及びご家族に対し、事前に十分説明を行い、同意を得ることを原則とする。

(2) 概要公表及び一括公表(年2回(11月、5月))

概要公表：事故の概要、原因及び今後の対策を掲載

一括公表：件数を掲載

2 医療事故等の発生状況

2011～2015年度の医療事故等の発生件数等は、次のとおりとなっている。

(単位：件)

レベル/年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
レベル0	244	221	244	173	56
レベル1	203	260	386	376	251
レベル2	228	201	—	—	—
レベル2a	—	—	29	74	39
レベル2b	—	—	5	4	10
レベル3	2	1	1	5	1
レベル4	—	—	0	0	0
レベル4a	0	0	—	—	—
レベル4b	0	1	—	—	—
レベル5	0	2	2	1	1

※レベル基準の改正(2013年4月1日)

【改正前】					【改正後】				
区分	レベル	障害の継続性	障害の程度	内 容	レベル	障害の継続性	障害の程度	内 容	区分
インシデント	レベル0	—	—	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、実施される前に気づいた事例	レベル0	—	—	事故が起こりそうな環境に前もって気づいた事例、実施される前に気づいた事例	インシデント
	レベル1	なし	—	患者への実害がなかった事例	レベル1	なし	—	患者への実害がなかった事例 何らかの影響を与えた可能性はあったが、処置や治療を要しなかった事例	
医療	レベル2	一過性	軽度	処置や治療を要しなかった事例、観察の強化や確認のための検査の必要性が生じた事例、簡単な処置や治療を要した事例(皮膚の縫合、鎮痛剤の投与など)	レベル2a	一過性	軽度	確認のための検査の必要性が生じた事例 簡単な処置や治療を要した事例(湿布、鎮痛剤の投与など)	医療
	レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例(皮膚の縫合など)	レベル2b	一過性	中等度	処置や治療を要した事例(皮膚の縫合など)	
事故	レベル3	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した事例(人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院など)	レベル3	一過性	高度	濃厚な処置や治療を要した事例(人工呼吸器の装着、入院日数の延長、外来患者の入院など)	事故
	レベル4a	永続的	軽度	永続的な障害や後遺症が残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない	レベル4	永続的	—	永続的な障害や後遺症が残った事例	
	レベル4b	永続的	高度	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う					
	レベル5	死亡	—	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)	レベル5	死亡	—	死亡(原疾患の自然経過によるものを除く)	

第8 ご意見の概要

分類	主な内容	対応内容など
苦情 (1件)	・職員への不満	・関係部署にご意見内容を伝えた。
要望 (10件)	・BSの設置について	・関係部署から口頭で説明を行った。
	・洗濯機用の両替機の設置について	・回答文書を掲示した。
	・お風呂の温度について	・関係部署から口頭で説明を行った。
	・食事の要望について	・関係部署にご意見内容を伝えた。
その他 (36件)	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への感謝 ・職員への不満 ・清掃、食事に関すること ・病棟での出来事 ・自己又は家族に関すること ・落書き ・判読不能のもの など 	
合計47件		

第9 資料(網走の精神保健・医療)

1 オホーツク総合振興局管内の人口と面積

人口：293,259人（うち網走市37,352人）（住民基本台帳28.1.1）

面積：10,691km²（国土地理院27.10.1）

2 精神科医療機関の状況（精神科を標ぼうしているオホーツク総合振興局管内の病院・診療所）

	名 称	所在地	許 可 病 床 数					医 療 機 能		
			総数	一般	療養	精神	感染	措置	応急	精神科 デイケア等
病 院	美幌療育病院	美幌町	150	60	30	60				
	北見赤十字病院	北見市	532	490		40	2	○		○
	(医) 玉越病院	北見市	110			110				○
	小林病院	北見市	300	256	44					
	(医) 端野病院	北見市	140			140				○
	北海道立向陽ヶ丘病院	網走市	105			105		○	○	○
	(社医) 網走脳神経外科、 リハビリテーション病院	網走市	64	64						
	遠軽厚生病院	遠軽町	337	285	50					
	(医) 遠軽学田病院	遠軽町	135			135				
	広域紋別病院	紋別市	150	148			2			
診 療 所	清里クリニック	清里町	19	19						
	(医) あいのない診療所	北見市	-							
	あしの医院	北見市	-							
	おんねゆ診療所	北見市	-							
	(社医) 桂ヶ丘クリニック	網走市	-							

※1 道医務業務課ホームページ「道内医療機関の名簿について」より（平成28年10月1日現在）

3 精神保健福祉社会資源

(1) 精神保健協会

名 称	所 在 地	電 話
網走地方精神保健協会	〒093-8585 網走市北7条西3丁目 網走保健所内	0152-41-0698

(2) 地域活動支援センター（地域共同作業所）

地域活動支援センター ふれ愛	〒093-0035 網走市駒場南1丁目4番1号 網走市ふれあい活動センター内	0152-45-4688
地域活動支援センター ニボグリラ	〒093-0035 網走市駒場南1丁目4番1号 網走市ふれあい活動センター内	0152-44-5992
地域活動支援センター 海の貝	〒093-0016 網走市南6条西2丁目 網走市民会館内	0152-61-4355
地域活動支援センター 梅トピア	〒093-0016 網走市呼人722-1	0152-48-3037
地域活動支援センター NPO法人 ひどり窓共同作業所	〒099-4116 斜里町文光町26番地9	0152-26-8668

(3) 精神障がい者地域生活支援センター（北網圏域）

サポートネット北見	〒090-0084 北見市北9条東1丁目14番地	0157-31-3399
-----------	--------------------------	--------------

(4) 計画相談支援事業所

特定相談支援事業者 きずな	〒093-0045 網走市大曲25番地1	0152-45-0050
相談支援センター 「りらいふ」	〒093-0014 網走市南4条西2丁目1 本間ビル1階	0152-44-7681
特定非営利活動法人 オホーツクススポーツクラブ	〒093-0042 網走市潮見185-19	0152-44-4880
網走市こども発達支援 センター	〒093-0061 網走市北11条東1丁目10-1	0152-44-1884
相談支援事業所 ちあふる	〒099-3213 大空町東藻琴340番地1	0152-67-7152
相談支援事業所 ゆい	〒099-4117 斜里町青葉町41	0152-23-6556
計画相談支援はな斜里	〒099-4141 斜里町豊倉50	0152-26-7131

(5) 共同生活援助事業所（グループホーム）

※他障害も対象

共同生活住居みずなら※	〒099-4116 斜里町文光町26-12	0152-23-3783
はまなす寮※	〒093-0045 網走市大曲25番地1	0152-67-5081
アスター※	〒099-2421 網走市字呼人393-2	0152-48-3553
サルビア※	〒093-0003 網走市南3条東2丁目	0152-44-7328
ハッピー荘※	〒099-2421 網走市字呼人721-1	0152-48-2660
オリーブ※	〒093-0042 網走市潮見5丁目125-67	
アザレアⅠ※	〒099-2421 網走市字呼人721-2	0152-48-2555
アザレアⅡ※	〒099-2421 網走市字呼人721-2	0152-48-3553
グループホーム海の貝	〒093-0083 網走市海岸町5の10	0152-67-8833
グループホーム海の貝2014	〒093-0083 網走市海岸町5の10	0152-67-8833
ひまわり	〒093-0043 網走市錦町120-20	0152-44-4875
ふれ愛ホーム	〒093-0084 網走市向陽ヶ丘2丁目14-1	0152-43-5466
ケアホーム夢ふうせん※	〒093-0086 網走市二ツ岩1-10	0152-67-4009
ケアホーム夢ふうせん	〒093-0089 網走市緑町3番2-2	0152-67-4009

(6) 精神保健福祉ボランティアの会

はとの会	〒099-4112 斜里町港町5-1	
コスモスクラブ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町社協内	0152-22-4840

(7) ボランティアセンター

網走市ボランティア センター	〒093-0012 網走市南2条西3丁目 網走市市民活動センター内	0152-61-4822
-------------------	--------------------------------------	--------------

※ 網走市以外の各町のボランティアセンターは各町社会福祉協議会に設置

(8) 社会福祉協議会

網走市社会福祉協議会	〒093-0061 網走市北11条東1丁目10番地	0152-43-2472
斜里町社会福祉協議会	〒099-4116 斜里町文光町52番地17	0152-23-4704
清里町社会福祉協議会	〒099-4405 清里町羽衣町35番地	0152-22-4840
小清水町社会福祉協議会	〒099-3612 小清水町字共和13番地3	0152-62-3988
大空町社会福祉協議会	〒099-2300 大空町女満別西4条4丁目1番6号	0152-75-6021

(9) 家族会

網走地方連合家族会	〒093-8585 網走市北7条西3丁目 網走保健所内	0152-41-0698
ニポグリラ家族会	〒093-0035 網走市駒場南1-4-1 ふれあい活動センター内	0152-44-5992
斜里あおぞら親の会	〒099-4117 斜里町青葉町40-2 総合保健福祉センターぼると21内	0152-22-2500

(10) 回復者クラブ

サークルエアポート	〒099-2323 大空町女満別西3条4丁目 大空町福祉課内	0152-74-2111
あおぞらの会	〒099-4113 斜里町本町6番地12 あおぞらの家	0152-23-6291
ゆりの会	〒099-3698 小清水町字小清水217番地 小清水町役場内	0152-62-2311
キララサークル	〒093-0073 網走市北3条西4丁目 市保健センター内	0152-43-8450

(11) 認知症高齢者の家族を支える会

網走介護者を支える会	〒093-0062 網走市北11条東1丁目 市総合福祉センター内	0152-43-2472
------------	----------------------------------	--------------

(12) 福祉の店

福祉の店 さんぽ	〒093-0202 網走市南4条西2丁目 ジオビル1F	0152-44-6128
----------	-----------------------------	--------------

(13) アルコール・薬物関連自助グループ等

北見断酒会	〒090-0053 北見市桂町3丁目165-16 森本様方	0157-22-7464
-------	----------------------------------	--------------

(14) 高次脳機能障がい者を支援する会

「つながり」高次脳機能障がい者を支援する会	〒090-0062 北見市美山町68-9 道東脳神経外科病院医療生活相談室内	0157-69-0300
-----------------------	---	--------------

(15) 社会復帰学級

パパスクラブ	〒099-4405 清里町羽衣町35番地 清里町保健福祉課	0152-25-3850
小清水町社会復帰学級	〒099-3698 小清水町小清水217 小清水町役場内	0152-62-2311

2015年度

北海道立向陽ヶ丘病院年報

2017(平成29)年2月発行

発行 北海道立向陽ヶ丘病院
編集 向陽ヶ丘病院広報委員会年報編集部会

〒093-0084

北海道網走市向陽ヶ丘1丁目5番1号

電話 0152-43-4138

FAX 0152-43-4365
